

# 第5次明日香村総合計画 基本計画（総合戦略）

— 明日香村読本 別冊 —



明日香村



## 第5次明日香村総合計画策定にあたって

明日香村では、村民のたゆまぬ努力により、古都の風格を偲ばせる歴史的文化遺産が、国民の財産である「歴史的風土」として受け継がれています。この「歴史的風土の保存」とそこに暮らす「住民生活の安定と向上」を図るため、昭和55年に明日香村特別措置法が制定され、今日まで「日本の飛鳥」として恥じない地域づくりを目指して、「住む喜びと誇りを感じられる村」づくりと「明日香まるごと博物館」づくりを推進して参りました。

「明日香まるごと博物館」づくりとは、日本国のはじまりを物語る歴史や、脈々と繰り返されてきた人々の営みから育まれた文化を最大限に活用し、村全体を屋根のない博物館として捉え、明日香村を五感で楽しめるよう村づくりを進めようとするものです。今後、世界遺産登録を目指す上でも、世界の飛鳥として、世界中の人々にこの地の魅力を伝えるため、「明日香まるごと博物館」づくりをさらに推進したいと考えています。

現在の明日香村を取り巻く社会情勢や生活環境は日々変化しており、明日香村の未来像を実現するための方策を「第5次明日香村総合計画」においてしっかり示し、明日香村特別措置法のもと策定される「第5次明日香村整備計画」（令和2年度～令和11年度）を実現することにより、未来の豊かな明日香村を築くことができると確信しています。

この総合計画では、「くらし」「なりわい」「たたずまい」の3つの視点と、「協働による村づくり」により、村の目標（将来像）である『いつまでも住み続けたい』そう思える夢ある村（くらしの環境づくり）、五感で体感できる『明日香まるごと博物館』づくり（活動・交流のむらづくり）の実現に向けて、「くらしの環境づくり」、「社会基盤づくり」、「明日香まるごと博物館づくり」の3つの村づくりがともに連動しながら、4つの重点戦略（①子どもの育ち・未来 ②安心、健康、いきがい ③定住、活動、交流 ④歴史展示、たたずまい、文化継承・創造）を推進できるよう、分野ごとの課題を踏まえ5つの基本政策を講じました。

今後、この総合計画を着実に実現するためには、村民の皆様方が、役場職員が、明日香村に関心を持つ皆様方が、それぞれ主体的に考えて行動していただき、一丸となって地域課題の克服にあたっていただき、明日香村の未来が世界へと輝くものになることを切に願っています。どうぞ、この総合計画が着実に遂行することができますようご協力をお願い致します。

最後になりましたが、総合計画の策定にあたり、議会並びに審議会委員の皆様、ワークショップにご参加いただきました皆様、パブリックコメント等でご意見をお寄せいただきました皆様をはじめ、様々な機会を通じてご協力をいただきました皆様に深く感謝申し上げますとともに、本計画の着実な推進に向けて今後も一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和2年3月

明日香村長 森川 裕一



## 目 次

I	はじめに（序論）	1
1	総合計画策定の背景	2
2	明日香村の概況	3
II	基本計画（総論）	5
1	基本計画策定に当たって	6
2	基本構想の概要	8
3	重点戦略	14
4	計画の実現に向けて	17
III	基本計画（各論・総合戦略）	19
	基本政策1 特色ある歴史的環境で「次代を担う子どもが育つ村」	20
1-1	明日香村で子育てしたくなる環境づくり（子育て）	20
1-2	明日香ならではの教育環境の充実（教育）	22
	基本政策2 万葉の地で「元気にいきいきと暮らせる村」	24
2-1	地域で支えあう福祉活動の充実（福祉）	24
2-2	健康づくりの推進（健康・医療）	26
	基本政策3 古都にふさわしい「安全・安心で生活しやすい村」	28
3-1	生活環境の整備・良好な市街地形成（生活環境・定住）	28
3-2	災害等に備える危機管理と安全・安心対策の推進（安全・安心）	30
	基本政策4 古代史の舞台で「交流を促し元気のある村」	32
4-1	集い働き住みたくなる村づくり（農・林・商・工）	32
4-2	魅力の向上と交流による観光振興を踏まえた活性化の推進（観光・雇用）	34
	基本政策5 世界遺産登録による「歴史的風土を守り活かし、新たな文化をつくり出す村」	36
5-1	歴史的文化的資産の保存と活用（保存活用・景観・里山）	36
5-2	明日香の価値の継承と創造（文化・情報発信）	38
	指標（KPI）	40
IV	人口ビジョン	41
1	明日香村人口ビジョンの位置付けと対象期間	42
2	人口の現状分析	44
3	過去の推移に基づく将来人口の推計と分析	49
4	明日香村の目指すべき人口の将来展望	51



I はじめに  
(序論)

# I はじめに(序論)

II 基本計画  
(総論)

III 基本計画  
(各論・総合戦略)

IV 人口ビジョン

## 1 総合計画策定の背景

総合計画は、村政運営の根幹となるまちづくりの目標を示し、これを達成するための基本理念を明らかにするものです。

2010年（平成22年）度からの「第4次明日香村総合計画」が、2019年（平成31年（令和元年））度に計画期間を迎えたことから、現在の村の課題や社会的環境の変化を踏まえ、2020年（令和2年）度から10年間の「第5次明日香村総合計画」を策定しました。

### 【総合計画の変遷】

1976年（昭和51年）度 第1次明日香村総合計画

1988年（昭和63年）度 第2次明日香村総合計画  
「調和と活力のあるヒューマン ビレッジ明日香  
～ 歴史と文化の里づくりをめざして ～」

2000年（平成12年）度 第3次明日香村総合計画  
「生まれてよかった 住んでよかった 来てみてよかった  
ふるさと明日香」

2010年（平成22年）度 第4次明日香村総合計画  
「古都の風格を育み、住む喜びと新たな魅力を創造する」  
—明日香を「感じ」「知り」「守り」「育てる」むらづくり—

2020年（令和2年）度 第5次明日香村総合計画  
「いつまでも住み続けたい そう思える夢ある村」  
「五感で体感できる 明日香まるごと博物館づくり」



## 2 明日香村の概況

### (1) まちづくりの歩み

#### 明日香のはじまり

「アスカ」という地名の由来には諸説あり、『古事記』、『日本書紀』では、主として飛鳥が用いられ、『万葉集』では、明日香と出てくる場合が多く、アスカの語源については、安宿（アンスク）に代表される外来説、イスカという鳥の名前から転じた鳥説、地形を表現する単語の合成としての地形説、また聖地説があります。

#### 飛鳥時代と飛鳥文化

一般の歴史上の時代区分では飛鳥で政治が執り行われた推古天皇豊浦宮（592年）から元明天皇の平城遷都（710年）までの飛鳥が政治文化の中心であった百年余を飛鳥時代と呼びます。

仏教伝来、そして大陸の影響を受けながら、日本の古代国家体制が整う時期であり、同時に天皇という称号が用いられ、対外的には日本という国号が正式に名乗られ、文化的にも仏教の興隆を基に漢字が正式に使用され、時と暦や都市計画、戸籍や納税制度といった初めての日本の枠組みが飛躍的に発展する時代となりました。

#### 古都保存・明日香保存

昭和41年（1966年）に古都保存法が制定され、明日香村の歴史的枢要地区の一部が指定されましたが、その後の相次ぐ歴史的発見や国民的・国家的保存の高まりの中で、昭和55年（1980年）明日香村特別措置法が制定されました。

この法律は、我が国の律令国家体制が初めて形成された時代における政治及び文化の中心地であったことを偲ばせる歴史的風土が明日香村全域にわたって良好に維持されていることから、住民の理解と協力のもとにこれを保存するため措置されたものであり、村づくりの基底となりました。

#### 明日香法施策

明日香村の歴史的風土と村民の生活環境及び産業等の推進に資するため、種々の施策が講じられ、事業の展開が図られています。

- ・明日香村整備計画（奈良県知事策定：第5次計画策定中）
- ・明日香村整備基金（国24億円 県6億円 村1億円）
- ・歴史的風土創造的活用交付金  
（平成12年度～国1～1.5億円 県2.5～3.75千万円／年）



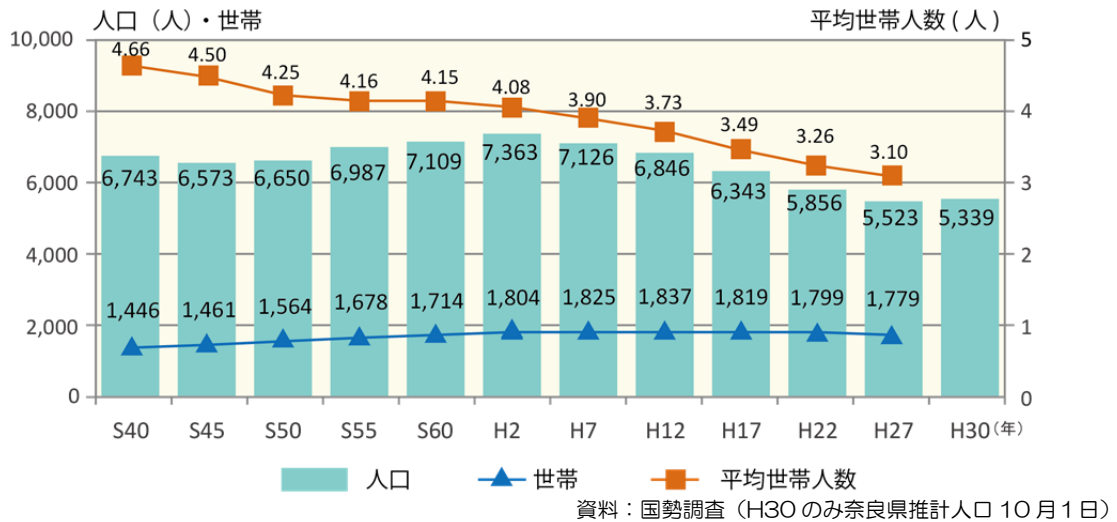
## (2) 明日香村の人口・観光客数

### 1) 人口

1990年(平成2年)の7,363人をピークに減少を続けており、2015年(平成27年)には5,523人で、約1,800人減少しています。

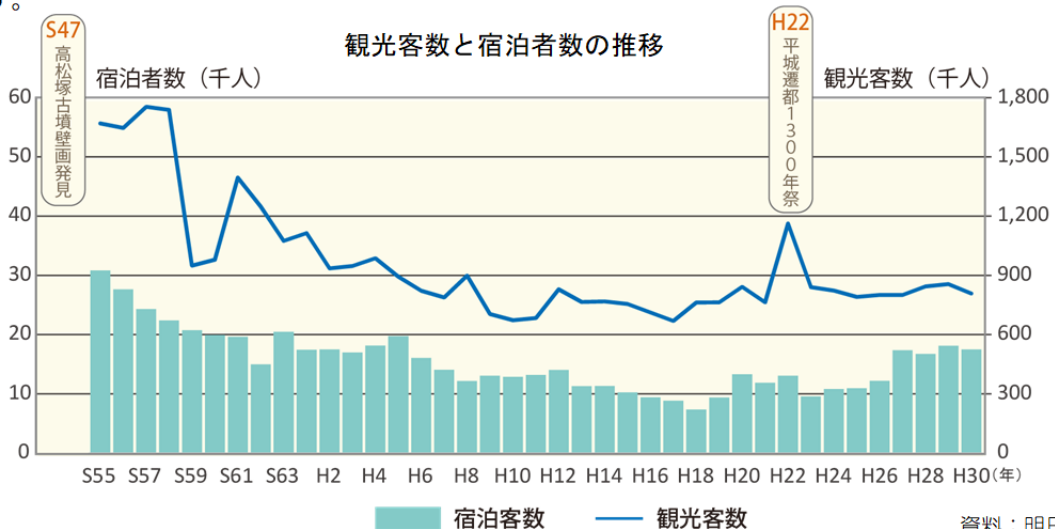
一方で、世帯数は2000年(平成12年)をピークに減少を続けており、一世帯あたりの人員数は、2015年(平成27年)には3.1人で、1990年(平成2年)からの四半世紀で平均世帯人員が約1人減少し、世帯規模が縮小しています。2017年(平成29年)4月には、村は過疎地域の指定を受けました。

人口・世帯数の推移



### 2) 観光客数

観光客数は、近年80万人前後で推移しています。一方宿泊者数は2万人程度で平成2017年(平成29年)以降近年増加傾向が見られます。関西圏への外国人観光客が増加する中で、宿泊者数にはその影響が見られますが、観光客数の伸びは多くない状況です。







I はじめに  
(序論)

## II 基本計画(総論)

II 基本計画  
(総論)

III 基本計画  
(各論・総合戦略)

IV 人口ビジョン



# 1 基本計画策定に当たって

## (1)基本計画の位置づけ

### 1) 基本計画の目的

基本計画は、「明日香村を未来へつなぐ本」(第5次明日香村総合計画〈基本構想〉〔令和2年度～令和11年度〕)に示した「暮らし」「なりわい」「たたずまい」の3つの視点と、『協働による村づくり』により、村の目標(将来像)である「いつまでも住み続けたいそう思える夢ある村(暮らしの環境づくり)」「五感で体感できる明日香まるごと博物館づくり(活動・交流のむらづくり)」の実現に向けて、本村が特に重点的に推進すべき取り組みや、分野ごとの課題を踏まえた施策の内容を明らかにすることを目的として策定します。

また、社会状況の変化に応じて5年程度で見直しを行い、本村の人口ビジョンに基づく総合戦略を兼ねています。

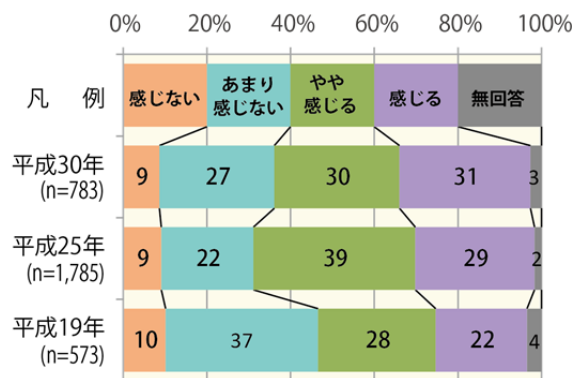
### 2) 10年間での住民意識の変化

#### 暮らしやすさ

「行為規制(建築・造成)による不便さを感じるか」について、「感じる・やや感じる」の合計は、2007年(平成19年)時点で50%あったのが、2013年(平成25年)には68%まで増加して、2018年(平成30年)には61%となっています。

規制感による不便さの回答比率が上昇しています。

Q 行為規制により不便を感じるか



資料：A/B/C

【資料 アンケート調査一覧】

- A：平成30年：第5次明日香村総合計画策定のための住民アンケート調査(平成30年7月実施/世帯調査)
- B：平成25年：明日香村の明日を描くための住民アンケート調査(平成25年12月実施/18歳以上全住民調査)
- C：平成19年：第4次明日香村総合計画策定のための住民アンケート調査(平成19年7月実施/世帯調査)
- D：平成30年：明日香村‘むらづくり’アンケート調査(平成30年7月実施/小学生(5,6年)と中学生調査)
- E：平成19年：明日香村小中学生‘むらづくり’アンケート調査(平成19年7月実施/小学生(5,6年)と中学生調査)

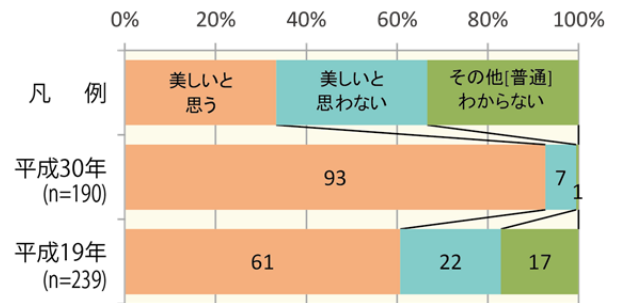


### 村への愛着

明日香村の風景を美しいと思う小学生・中学生が、2018年(平成30年)には93%で、2007年(平成19年)から32ポイント増加しています。

このことから、この10年で村への愛着が増していると考えられます。

Q 明日香村の風景を美しいと思うか



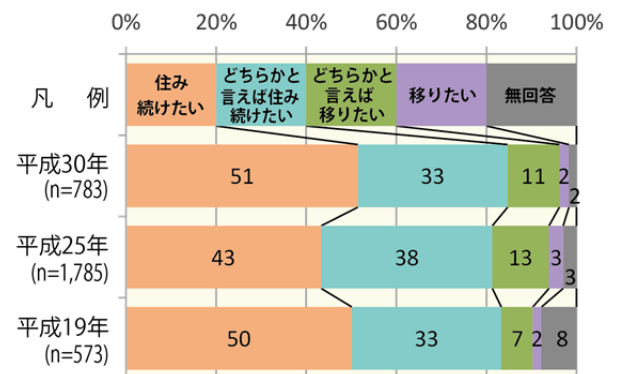
資料：D/E

### 定住意向

今後も明日香村に「住み続けたい」「どちらかと言えば住み続けたい」の合計は、2007年(平成19年)時点で83%、2013年(平成25年)には81%、2018年(平成30年)には84%と、8割を維持しています。

このことから、この10年間は、定住を希望する意向が維持できていると考えられます。

Q 今後も明日香村に住み続けたいか



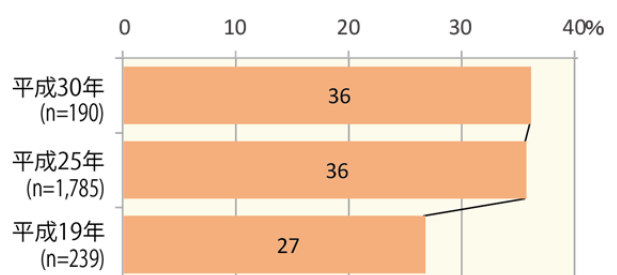
資料：A/B/C

### 村づくりへの関心

総合計画策定のためのアンケート調査への回答率は、2007年(平成19年)は27%でしたが、2013年(平成25年)と2018年(平成30年)には36%となっています。

このことから、住民の村づくりへの関心がこの10年で増加したと言えます。

Q 計画策定のアンケート調査回答率



資料：A/B/C



## 2 基本構想の概要

### (1) 将来像

#### 明日香村が目指す未来のすがた

##### ○明日香村の価値

唯一無二の多様な歴史資産の豊かな自然環境中で「くらし」や「なりわい」、  
「たたずまい」があるところ



##### ○協働による村づくり

様々なノウハウや考えを持った多様な人材が明日香村を支えるパートナー  
として、みんなで地域課題を克服できる明日香村を目指します。



##### ○目 標（将来像）

「いつまでも住み続けたい」  
そう思える夢ある村  
(くらしの環境づくり)

五感で体感できる  
「明日香まるごと博物館」  
(活動・交流のむらづくり)

#### 基本方針

- 村民が「健康に暮らし、次代を担う子どもたちが育つ村づくり」
- 全村まるごとを活用した「活力ある村づくり」
- 「明日香らしいたたずまいを感じられる村づくり」

#### 指 標

【定量指標】 転出者より転入者が多くなる

(人口社会増 30 人/年)

【定量指標】 人が訪れ交流が生まれ経済が活性化する

(宿泊客数 5.0 万人/年)

【定性指標】 歴史展示をすすめ、世界に明日香村を発信する



## 村づくりの体系

～ 志縁活動 ～ 企業・大学・NPO 団体など

～ 地縁活動 ～ 大字・消防団・老人会・婦人会など

### くらしの環境づくり

子育て・教育・健康・医療・地域福祉

- ① 特色ある歴史的環境で「次代を担う子どもが育つ村」
- ② 万葉の地で「元気にいきいきと暮らせる村」

### 社会基盤づくり

道路・水路・河川・上下水道・防災・公共施設・情報通信・交通・定住

- ③ 古都にふさわしい「安全・安心で生活しやすい村」

～ 五感で体験 ～

### 明日香まるごと博物館づくり

文化財・景観・農林業・商工観光・雇用

日本  
遺産

世界  
遺産

観

見どころ

感

体験

泊

宿

食

食事処

買

お土産

- ④ 古代史の舞台で「交流を促し元気のある村」

- ⑤ 世界遺産登録による  
「歴史的風土を守り活かし新たな文化をつくり出す村」

志縁活動…………… ボランティア団体、NPO法人、スポーツクラブなど特定の目的で集まった組織による活動  
 地縁活動…………… 自治会、PTAなど居住地域を対象とした組織による活動

I はじめに (序論)

II 基本計画 (総論)

III 基本計画 (各論・総合戦略)

IV 人口ビジョン



## (2) 計画フレーム

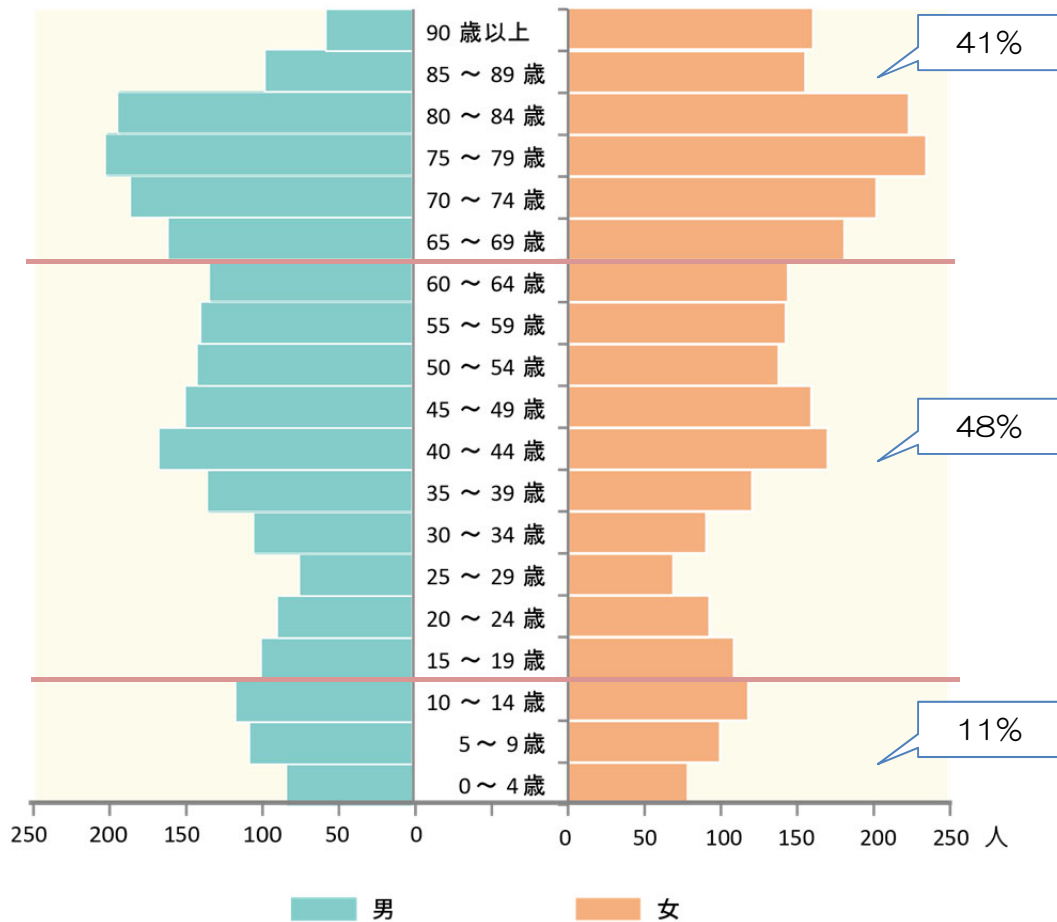
### 1) 総人口・年齢別人口

将来の人口のフレームは、人口ビジョンを踏まえ、目標年次である 2029 年（令和 11 年）に、5,000 人とします。

年齢別の推計からは、高齢化率 41%、年少人口比率 11%で、高齢化率が高くなることが予測されます。

2019年（平成31年）4月 5,560人  
⇒ 2029年（令和11年） 5,000人

将来人口フレーム 2029 年（令和 11 年）の人口ピラミッド





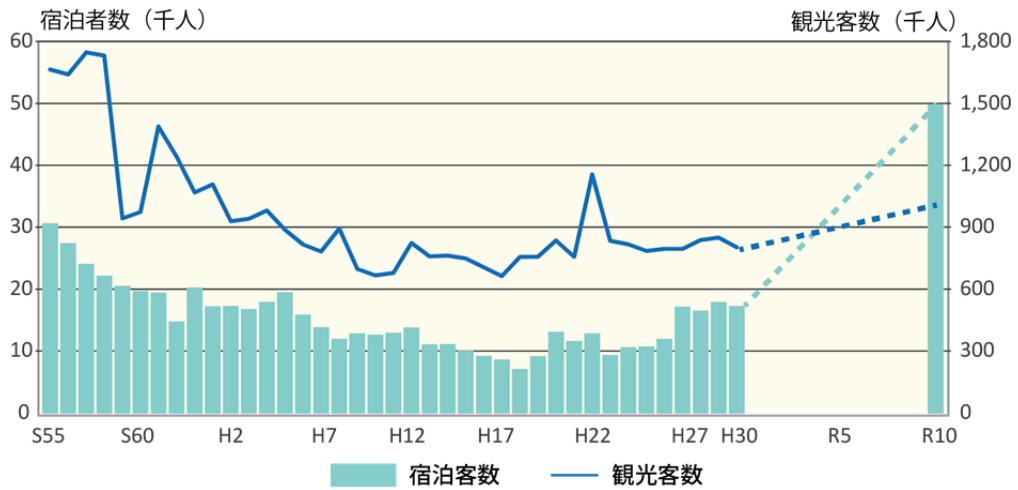
## 2) 交流人口

交流人口としては、今後の観光産業の振興を踏まえて、観光客数と宿泊者数の2つのフレームを設定します。

観光客数 2019年(令和元年) 80.8万人  
⇒ 2029年(令和11年) 100万人/年

宿泊者数 2019年(令和元年) 2.0万人  
⇒ 2029年(令和11年) 5.0万人/年

交流人口(明日香村観光客数・宿泊者数)フレーム





### (3)土地利用の方向性

#### 1) 基本方針

本村が目指す村づくりの将来像を実現するため、これまでの土地利用の方向性を踏まえつつ、以下の基本方針に基づき、長期的な視野の下に限られた資源である土地を有効活用し、明日香らしさと時勢に合致した計画的な土地利用を図ります。

##### ①自然環境・歴史的景観の保全と活用

村内5地区にバランス良く設置された国営飛鳥歴史公園や奥明日香の重要な文化的景観地区をはじめとした緑豊かな自然環境に恵まれています。本村の最大の特徴であり魅力である歴史的文化的遺産と自然環境を適切に維持・保存するとともに、村民はもとより、訪れる多くの人々がその魅力を実感できるよう活用し、村づくりやものづくりにつなげ、世界遺産登録や明日香らしい地域活力を創出します。

##### ②定住・就労環境等活力の創出

本村に課せられた歴史的風土の維持・向上を図りながら、一方で、利便性の高い暮らしや夢ある生活環境づくりに向けた土地利用にあっては、地域特性やニーズの多様化を踏まえ、「住み・働き・集う」地域拠点の適正配置を目指します。

また、新たな住宅地形成可能な住環境の創出を図るとともに、歴史的環境と調和する企業等の誘致により地域産業の活性化に取り組みます。

#### 2) 地域別土地利用

##### ①飛鳥駅周辺活性化ゾーン

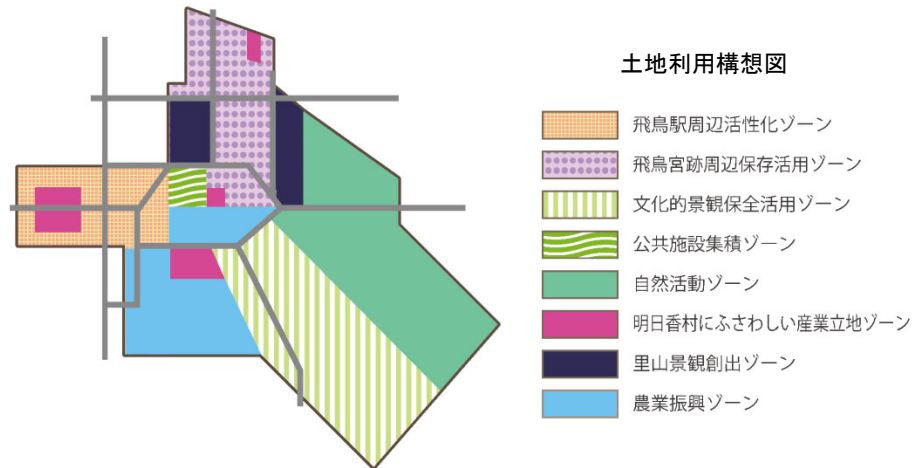
国道沿いには、村民の生活を便利にし、来訪者をもてなし、交流するための施設の誘致を優先的に行います。市街化区域では一般住宅の建設による定住を促進します。また、価値のある古墳群を活用した広域連携による周遊の場や農業体験などの都市農村交流の場として村の魅力発信を図ります。

##### ②飛鳥宮跡周辺保存活用ゾーン

飛鳥宮跡、飛鳥京跡苑地を適切に保存活用し、飛鳥時代を体感できる空間を創ります。

隣接する集落では歴史をゆっくり味わうための宿泊施設や歴史探索でホッと一息つける喫茶店や飲食店など賑わいを創るとともに、芸術や伝統的な芸能を体感できる場も創ります。





### ③文化的景観保全活用ゾーン

棚田や集落の風景を守り、それぞれの集落が昔から培ってきた伝統行事や暮らしの中での飛鳥川や山林との関わりなどの営みを守ることで、後世に伝えます。さらに都市住民が滞在して自然を体験し、村民と交流する取り組みを促します。

### ④公共施設集積ゾーン

公民館、健康福祉センター、診療所、建設事業を進めている役場庁舎など公共施設を集積することで、村民が効率的に利用できるコミュニティ拠点を育成します。また村内外の人々が交流し情報交換する場の空間を創出します。

### ⑤自然活動ゾーン

森林・棚田景観の保全など景観形成を進めつつ、樹種転換などの森林整備や間伐材の有効利用における自然体験の場としての活用の展開を図ります。

### ⑥明日香村にふさわしい産業立地ゾーン

明日香村の歴史や風土に共感する企業の誘致や起業を促進し、明日香村の経済活性化を図ります。

### ⑦里山景観創出ゾーン

飛鳥宮跡を取り囲む里山は、樹種転換により四季の彩りを感じられる里山景観を創出します。

### ⑧農業振興ゾーン

点在する当時の天皇や皇族などの陵墓と歴史的景観が調和した独特の景観を創出するとともに、野菜や果樹、米など生産農業の促進を図りながら、観光農園・オーナー制度など農業を通じた交流が生まれる展開を進めます。

※農住環境の拡充： これらゾーンの特性と重ねて既存集落及びその周辺での住宅開発など農住環境の拡充を目指します。



### 3 重点戦略

人口減少と少子高齢化の全国的な傾向により、本村においても平成2年をピークに避けて通れない課題となり、2017年(平成29年)には、過疎地域の指定を受けました。

少子高齢化が加速することで、年齢ごとの人口バランスが大きく変化し、農林商工といった経済活動の縮小や社会保障費負担の増大、まちづくり活動の担い手の減少など、地域活力の低下につながる懸念されます。

このような状況の中で、若い世代が安心して子どもを育てる社会、生まれた子どもが健やかに育つ社会、また高齢者が生きがいを持ち、住み慣れた地域で暮らし続けることができる社会を目指すことが大切であり、明日香で住みたい、起業したいといった人々を迎え入れる環境づくりを創出するため、さまざまな関係機関・団体との協働による地域活性化が今後不可欠となります。

さらに、防災や減災への関心が高まり、その取り組みが求められています。道路や橋梁、公共施設等の老朽化が進み、一斉に更新時期を迎えていることから、既存の社会基盤の安全性を確保するための長寿命化が必要となります。

また、経済的発展や社会的課題を解決するため、IoT や AI などの新たな技術進展による Society5.0 の実現や、国連の「持続可能な開発目標」(SDGs : Sustainable Development Goals) の達成にも繋げることが求められています。

一方、本村の最大の魅力と特徴である歴史的背景を活かし、歴史的文化的遺産の「見える化」に重点を置き、歴史的風土を創造的に活用することが望ましいと考えられます。

そのため、基本計画では、以下に掲げる4つの分野を「重点戦略」とし、特に力点を置いて進めることとします。

■重点戦略1：子どもの育ち・未来

■重点戦略2：安心、健康、いきがい

■重点戦略3：定住、活動、交流

■重点戦略4：歴史展示、たたずまい、文化継承・創造



### 重点戦略1: 子どもの育ち・未来

少子化を改善するためには、若い世代が安心して子どもを育て、子どもたちが未来への希望をもてる環境をつくることが重要です。

そのため、出産・子育てに関して、経済的、精神的な不安が解消し、子どもをもちたいと希望する人が安心して出産できる環境をつくるとともに、医療制度の充実や保育環境づくりを進めます。

また、教育の分野では、本村独自の英語教育や国際交流などさまざまな教育カリキュラムに基づき、幼小中一貫教育の中で公教育の質の向上を目指し、未来に向かって夢を実現する力を育てます。

さらに、心身の健康とスポーツへの動機付けのために、スポーツを行う機会の充実を図ります。



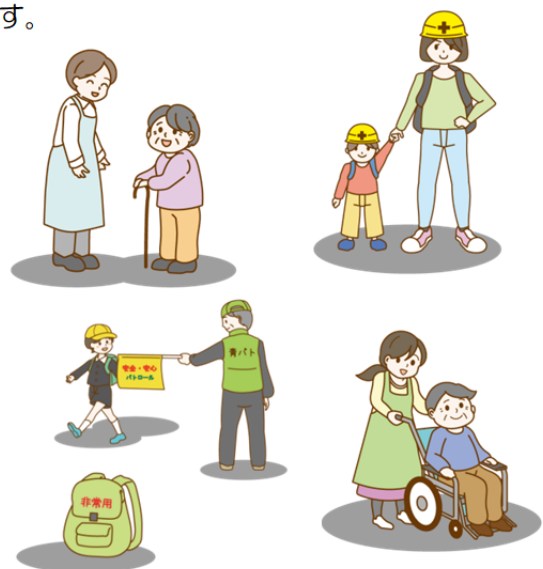
指標	単位	基準(H30)	目標
人口の社会増	人/年	21	30

### 重点戦略2: 安心、健康、いきがい

防災について、国土強靱化を踏まえ、今後発生しうる大規模災害に備え、地域の安全・安心を確保するため、村民や関係機関団体との連携を強めるとともに、地域での主体的な防災や減災等への取り組みを支援していきます。

さらに、上下水道や橋梁、公共施設等については、計画的に耐震化や長寿命化を推進し、村民が安全・安心に暮らせる地域環境を構築します。

また、子どもから高齢者まで全世代が健康で生きがいをもち、住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう学習の機会の創出や心のケアに対する体制づくり、医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される「地域包括ケアシステム」の構築を見据え施策を展開します。



指標	単位	基準(H30)	目標
人口の社会増	人/年	21	30



### 重点戦略3: 定住、活動、交流

本村に住みたいとの潜在的なニーズに応え、子育て世帯が定住できる住宅地形成の促進や空き家の活用により定住人口の増加を推進します。

併せて、豊富な観光資源の活用による観光戦略を検討し、観光来訪者などの受入環境の整備に取り組むことで、農林商工等の地域産業に波及を及ぼす産業の活性化を進めます。

また、大学や企業、NPO 等と連携し、村民との協働により、地域課題を克服し、地域産業振興、教育・文化の発展、地域づくりなどの多様な分野において協力することにより地域社会が進展することを目指します。



さらに、村民や来訪者が、明日香の美しい自然や歴史・文化に触れ、相互に交流する中で、明日香まるごと博物館づくりによる「観・感・泊・食・買」により、出会い、集い、味わう明日香を目指します。

指標	単位	基準(H30)	目標
人口の社会増	人/年	21	30
宿泊客数	万人/年	2	5
ふるさと納税	件/年	1,046	1,200
観光入込客数	万人/年	80.8	100

### 重点戦略4: 歴史展示、たたずまい、文化継承・創造

本村の歴史的文化的遺産の価値をわかりやすく魅力のあるものにする取組として適切に保存、継承するとともに、飛鳥宮跡や牽牛子塚古墳の整備や高松塚古墳壁画の公開を求めるなど、明日香らしさを体感でき魅力を高めることができるよう「見える化」の促進により観光力の向上を図るとともに、世界遺産登録の実現による地域全体の価値を日本のみならず世界に訴求します。

また、往時を偲ばせる歴史的風土のなかで受け継がれてきた、自然環境と農村集落環境の調和のとれた「たたずまい」を目指し、特に歴史的風土の重要な要素である「農」については、戦略づくりを行い、農業の継続を目指します。

飛鳥時代からさまざまな変遷を経ながらも連綿と受け継がれてきた地域・伝統文化の蓄積を継承するとともに、新たな文化活動を支援します。

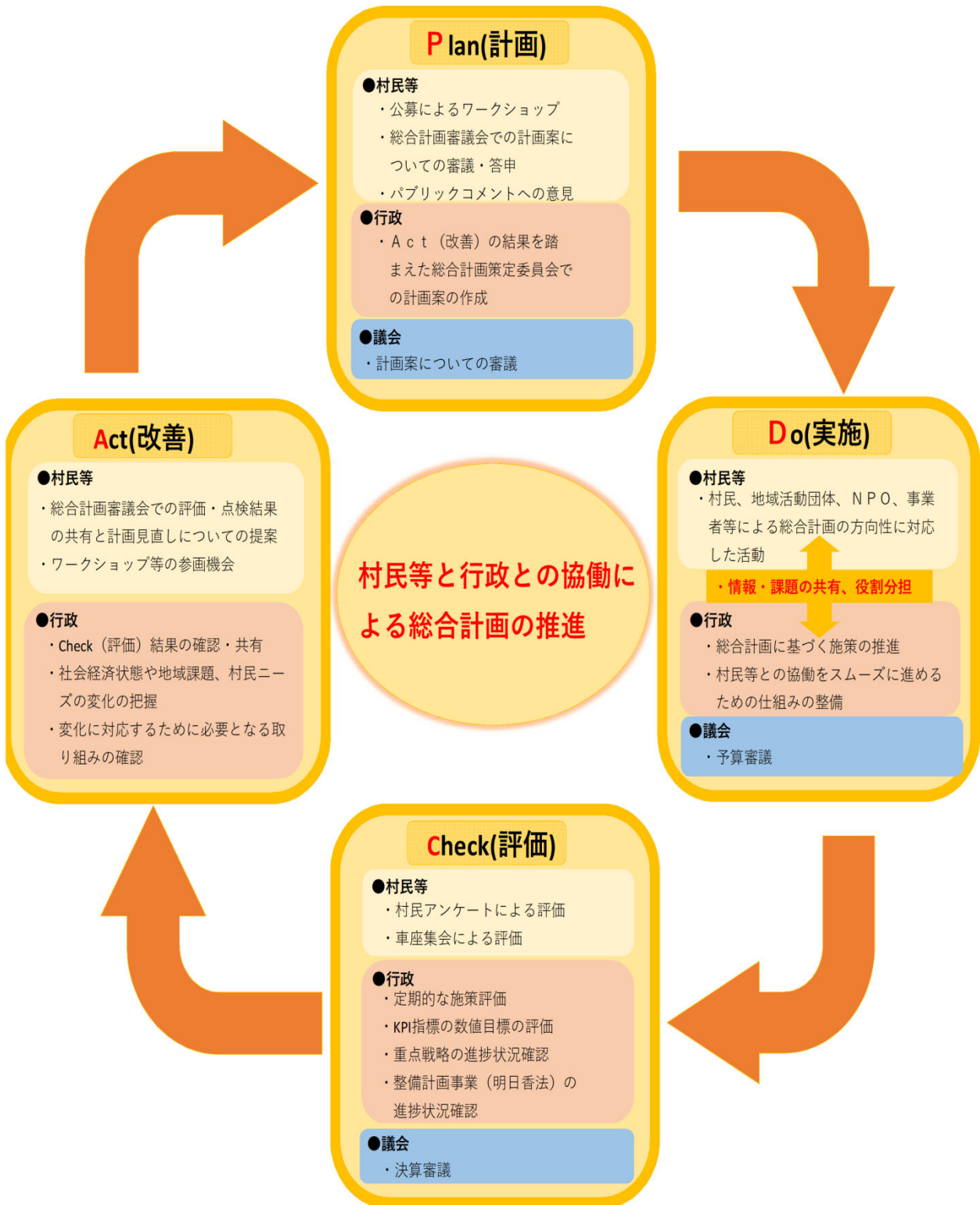


指標	単位	基準(H30)	目標
観光入込客数	万人/年	80.8	100
外国人観光客数	万人/年	1.4	2



## 4 計画の実現に向けて

計画の進行管理は、「計画」(Plan) → 「実行」(Do) → 「評価」(Check) → 「改善」(Act) による「PDCA サイクル」に基づいた仕組みで実施します。



I はじめに (序論)

II 基本計画 (総論)

III 基本計画 (各論・総合戦略)

IV 人口ビジョン



I はじめに  
(序論)

II 基本計画  
(総論)

III 基本計画  
(各論・総合戦略)

IV 人口ビジョン



I はじめに  
(序論)

II 基本計画  
(総論)

III 基本計画  
(各論・総合戦略)

IV 人口ビジョン

## III 基本計画（各論・総合戦略）

# 基本政策1 特色ある歴史的環境で 「次代を担う子どもが育つ村」(子育て・教育)

～ みんなで進めてもらいたいこと ～

- ① 地域コミュニティ活動(あいさつ運動・学校環境整備)
- ② 子育て支援(ファミリーサポート・支援団体)
- ③ スポーツ振興(楽スポ)

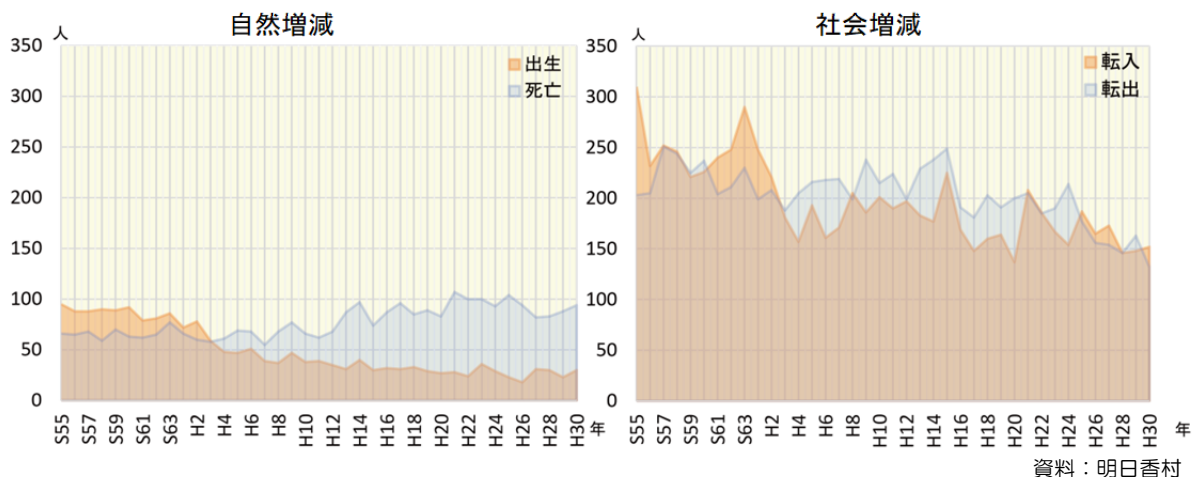
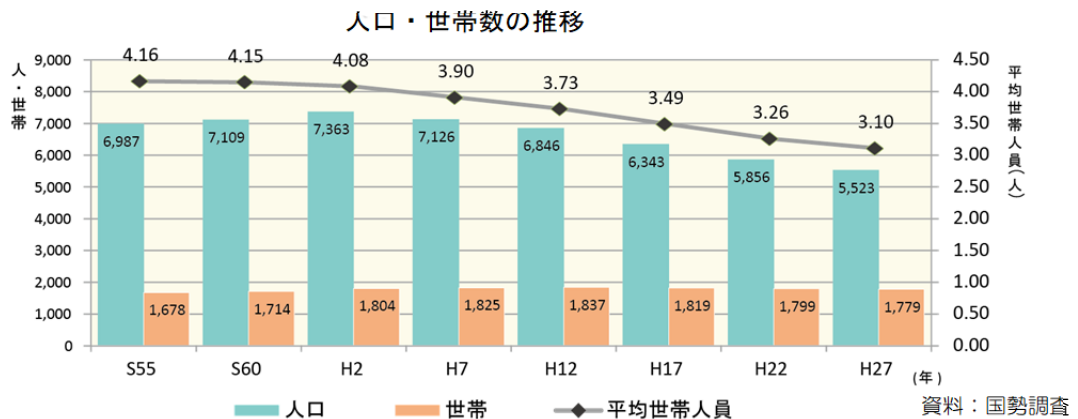
## 1-1 明日香村で子育てしなくなる環境づくり (子育て)

### 現状と課題

本村の人口は、2017年(平成29年)に過疎地域に指定されたように減少の途を辿り、社会経済情勢の変化に伴う核家族化の進行、就労環境の変化、また少子化の流れは変わっていません。

しかし、2015年(平成27年)度に人口ビジョンを定め、総合戦略を策定し、教育環境や子育て環境の充実に取り組む中、近年は、子育て世帯が転入する傾向にあり、社会減が収まりつつあります。

引き続き、子どもを産み育てるための経済的・心理的な不安や負担を軽減するとともに、子どもたちが健やかに育ち、保護者が安心して子育てができる環境づくりが求められます。







## 目 標

- 「明日香村で子育てがしたい」ニーズに応えられる環境づくりに取り組みます。
- 多様な保育ニーズに対応した保育サービスと幼児教育の充実を目指します。

## 基本方針

- 安心して産み育てられる社会・経済的環境づくりを進めます。
- 子育てに関する不安や負担を和らげる取り組みを進め、支援が必要な人に適切なサービスの提供を行います。
- 保育サービスの向上と幼児教育環境の充実を進めます。

## 主な施策

- ①就学前教育環境の充実
- ②安心して働ける子育て環境づくり（多様な保育サービスの提供など）
- ③「産む」「育てる」の支援（新築補助金・入学祝金、給食費の負担軽減）
- ④子育て情報の発信、相談体制の充実
- ⑤妊娠期から子育て期にわたる切れ目ない支援
- ⑥母子保健の充実
- ⑦学童保育、子供の預かり、子育て中の親子の居場所、交流機会の創出(マコリエなど)



「らっこ教室」ふれあいあそび



くまさんといっしょくらぶ

## 1-2 明日香ならではの教育環境の充実（教育）

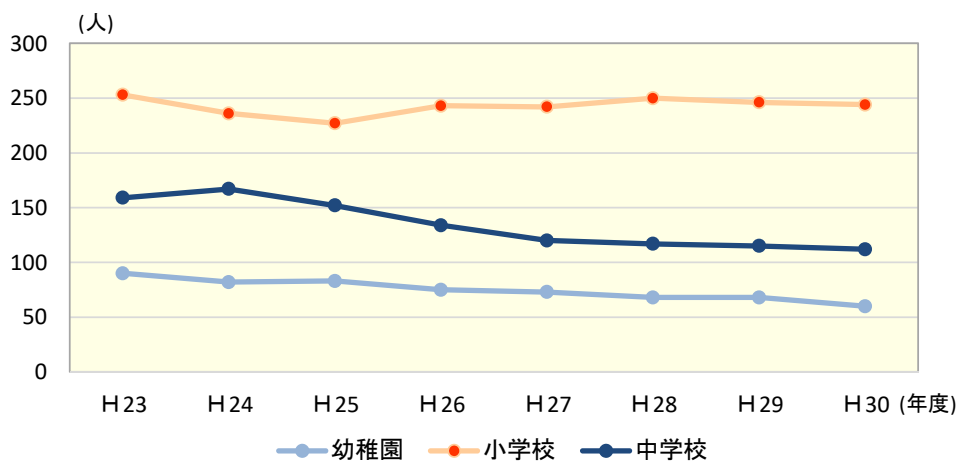
### 現状と課題

本村の幼稚園・小学校・中学校では、少子化の進行に伴い児童・生徒数が減少しており、子どもたちの課外活動の機会の減少や配置される教師数の減少などの問題が生じてきています。

必要な教師数の確保や教育を受ける環境の充実に取り組む一方、明日香ならではの取り組みとして、幼小中の連続したカリキュラムや教師の連携により、コミュニケーション力を高める言語力や英語力の向上、郷土に関心を持つ子どもの育成を目的に「幼小中一貫教育」の取り組みを進めています。また、子どもたちが少人数でも様々なスポーツなどに取り組める機会の創出を行っています。

しかし、子どもたちのしつけや社会とのつながり、郷土愛の醸成など、学校だけでは解決することが困難であり、家庭や地域との連携による課題解決が求められることから、様々な地域コミュニティ活動により、子どもたちを取り巻く教育環境の向上に取り組むことが必要です。

児童・生徒数推移



資料：明日香村



## 目 標

- 子どもたちが郷土に誇りをもち明日香村を支える人になれる取り組みを進めます。
- 子どもたちが生きるための基礎的な生活習慣や能力、学力を培うとともに、心身の健全育成を目指します。

## 基本方針

- 学校、家庭、地域が一体となり、明日香ならではの教育環境の充実を図り、心身ともに健やかで個性豊かな子どもたちを育てます。
- 子どもたちが地域のことを学び、地域で育てられる環境づくりを進め、郷土に誇りをもった明日香村を支える人づくりを進めます。
- 人間形成の基礎となる社会性を育み、子どもたちの個性を伸ばし、たくましく生きる力を育成します。

## 主な施策

- ①幼・小・中一貫教育の推進
- ②学力体力向上のための授業づくりの推進
- ③コミュニケーション力を高める言語力・英語教育の推進
- ④地域と連携した郷土学習の推進
- ⑤いじめや不登校の問題改善に向けた取り組み
- ⑥安全で快適な学校の整備
- ⑦学びを支える教育環境の整備
- ⑧学校給食の円滑な運営
- ⑨総合型地域スポーツクラブの充実などスポーツ活動の推進
- ⑩図書機能の充実と生涯学習機会の提供



英語教育



総合型地域スポーツクラブ「楽スポあすか」

# 基本政策2 万葉の地で 「元気にいきいきと暮らせる村」(健康・福祉)

～ みんなで進めてもらいたいこと ～

- ① 地域福祉活動(訪問員)
- ② 生きがいつくりの運営

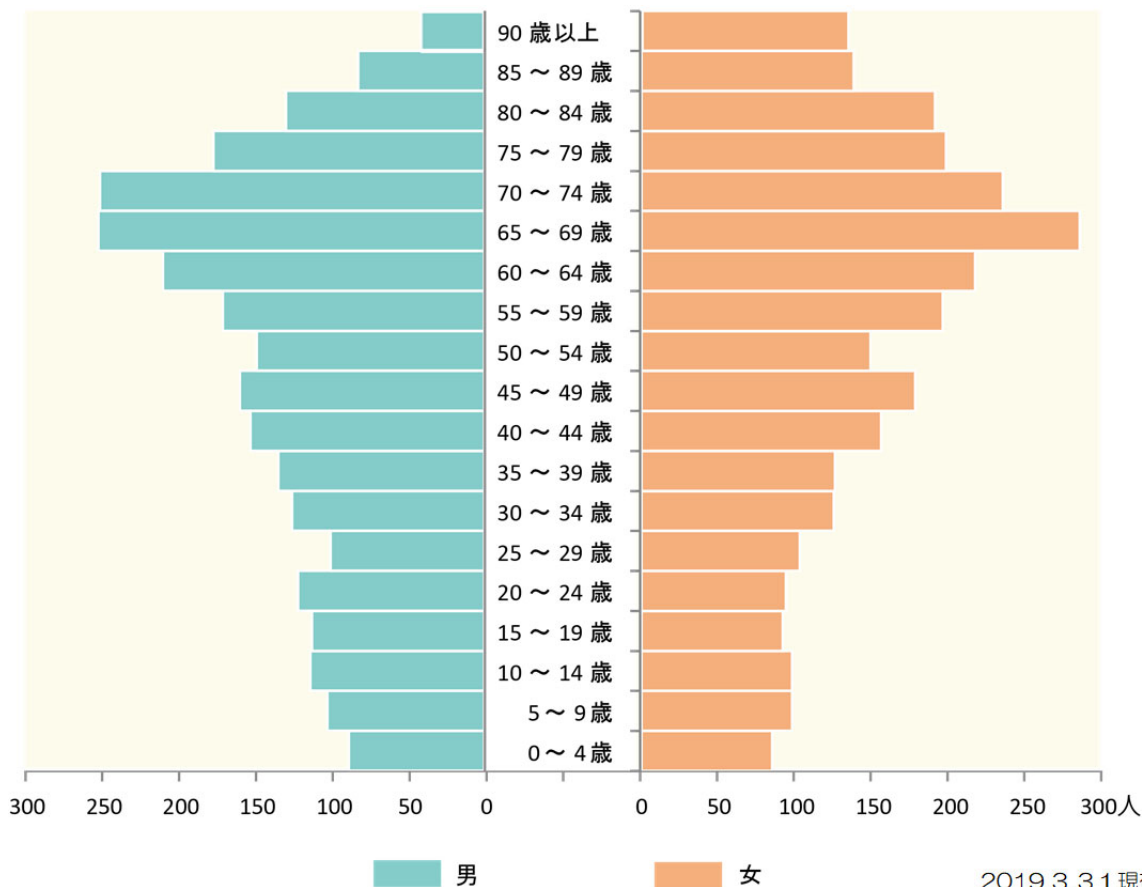
## 2-1 地域で支えあう福祉活動の充実 (福祉)

### 現状と課題

明日香村では人口減少とあわせて、65歳以上の老年人口比率(高齢化率)が大きくなり、また15歳未満の年少人口は減少しています。各地区の年齢構成は大きな差はなく、いずれも少子高齢化が進んでいます。

子どもから高齢者、障がい者など村民の誰もが、生涯にわたって健やかで生きがいのある生活を安心して送ることができるよう、多様化する地域の課題に対応し、行政だけでなく地域ぐるみで支え合う福祉の地域づくりが求められています。

2019年度 明日香村人口ピラミッド



2019.3.31現在

資料：明日香村



## 目 標

○村民だれもが生涯にわたり、学習する機会を得ることができ、健やかで生きがいのある生活を安心して送ることができる、地域ぐるみで支え合う村を目指します。

## 基本方針

- 助け合いの心もち自主的な活動の機運を醸成します。
- 関係機関や各種団体との連携により地域福祉の充実を図ります。

## 主な施策

- ①地域福祉活動への村民参加の促進
- ②見守り強化や買い物サポートなどの地域住民による支え合い活動の促進
- ③高齢者・障がい者の社会参加の促進と生活支援
- ④人権尊重と暴力根絶の推進（命の大切さ）
- ⑤地域包括ケアシステムの構築
- ⑥高齢者等福祉サービス（バス・デマンドタクシー）
- ⑦誰もが生涯にわたり学べる機会の創出



生きがい事業



サロン事業

## 2-2 健康づくりの推進 (健康・医療)

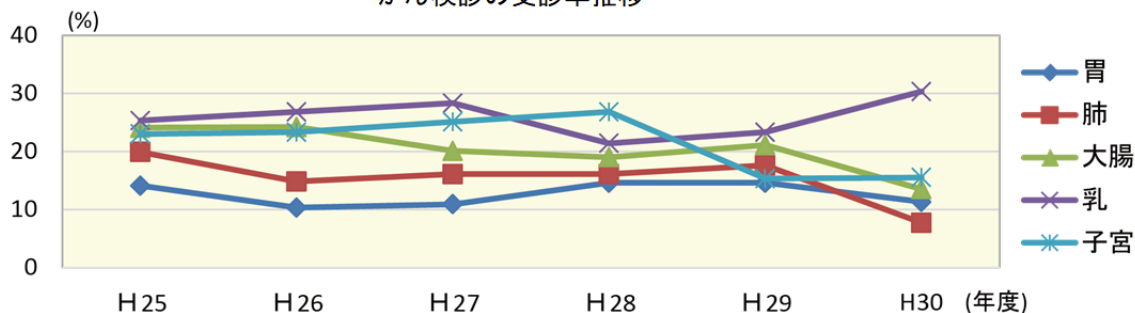
### 現状と課題

国民健康保険診療所の設置により一次医療体制を確保し、医療受給者の負担を軽減するためのきめ細かな各種福祉サービスの提供に取り組んでいます。

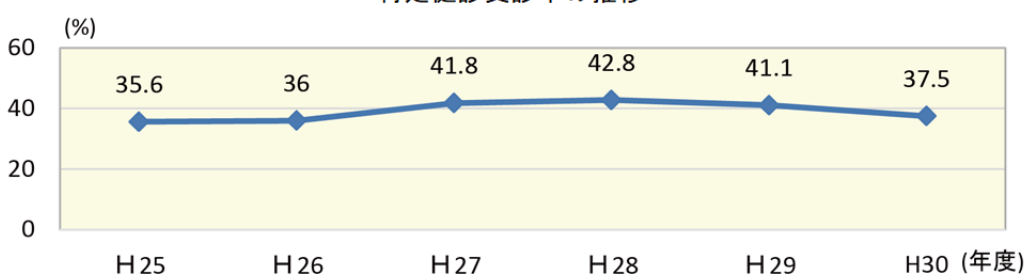
また、病気の早期発見や発症予防のために、あすか健康プロジェクトなどを受診する機会を創出し取り組んでいます。

しかし、医療・福祉・介護サービスへのニーズは一層多様化し、高齢化の進行が著しい中で、安定的なサービスの維持やサービス水準の確保が大きな課題となっています。村民だれもがこころと体の健康を保てるよう、心のケア、保健・医療・福祉の充実が求められます。

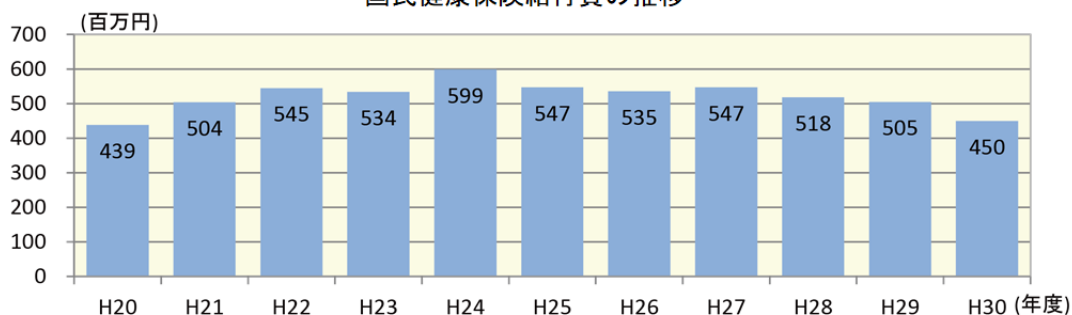
がん検診の受診率推移



特定健診受診率の推移



国民健康保険給付費の推移



資料：明日香村



## 目 標

- 村民だれもが生涯を通じて、こころと体の健康を保てる環境づくりを目指します。
- ライフステージに応じた疾病予防と健康増進を図り、生活習慣の改善に取り組みます。

## 基本方針

- 保健・医療・福祉の充実を進め、村民だれもがこころと体の健康を保てるよう、支援が必要な人に対する的確なサービスを提供します。
- 村民の健康づくり活動を支援します。

## 主な施策

- ①生活習慣病の発症予防・重症化予防の推進（健康応援団）
- ②国民健康保険の健全運営
- ③健康づくりと介護予防の推進（あすか健康プロジェクト・フレイル予防）
- ④一次医療の確保（診療所）
- ⑤心のケアの体制検討



健康診断



フレイル予防体操

# 基本政策3 古都にふさわしい 「安全・安心で生活しやすい村」(安全・安心・生活環境・定住)

～ みんなで進めてもらいたいこと ～

- ① 地域づくり活動の推進 (地縁団体・営農団体)
- ② 防災対策 (自主防災会・消防団)
- ③ 防犯対策 (青パト・防犯会)
- ④ 交通安全 (交通安全協力会)
- ⑤ 住宅地の創出
- ⑥ 空き家バンクへの登録

## 3-1 生活環境の整備・良好な市街地形成 (生活環境・定住)

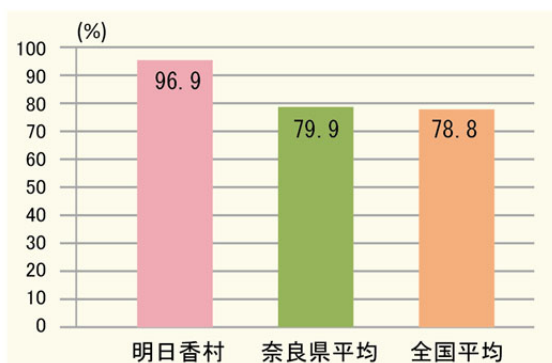
### 現状と課題

1980年(昭和55年)から4次にわたる明日香村整備計画に基づく取り組みによって、住民生活を支える道路、下水道、都市公園等の基幹的インフラの整備水準の向上を図ってきました。その結果、下水道普及率など奈良県平均と比べても高い水準になっています。その一方で、整備完了から年月が経過し、耐震や老朽化対策が必要となってきています。

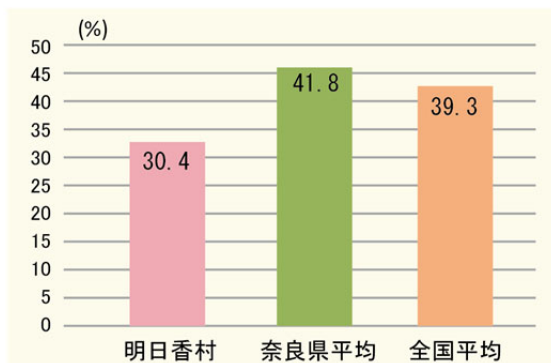
人口については、減少傾向が続いており、明日香村は2017年(平成29年)4月に過疎地域に指定されました。近年、社会減には歯止めがかかっていますが、20歳代の転出超過が著しい状況にあり、また高齢化率は近隣自治体と比較しても非常に高くなっています。このため昔から続く地域活動の継続が難しくなっている状況もみられます。若年層の生活スタイルに合った生活環境の整備や高齢者が安心して住み続けられる生活環境の整備が求められます。

さらに、地域貢献を行う産業の誘致を行い都市機能の充実を図るとともに、市街化区域の空白地の有効活用や地区計画の策定等による市街化調整区域での住宅地形成、村内に増加する空き家の活用により、子育て世帯等が定住しやすい環境づくりが必要とされています。

下水道普及率 (平成29年度)



上水道耐震化率 (平成29年度)



資料 明日香村





## 目 標

○明日香ならではの歴史的風土や豊かな自然環境などの特性を活かしたまちづくりを推進するため、地域特性に応じた土地利用を進めます。

## 基本方針

- 良好な住宅地環境や産業誘致に必要な地区計画制度の導入により、秩序ある土地利用の促進を図ります。
- 道路、公共交通、上下水道、情報通信などの都市基盤の充実を図ります。
- 地域特性を活かし自然と調和した快適で住みよい生活環境の整備を進めます。
- 村民や関係する多様な主体との協働によるむらづくりを進めます。
- 「明日香村に住みたい」気持ちを受け入れる居住の場を確保するため、土地所有者との協働による住宅地創出や空き家を活用した定住に向けた取り組みを行います。
- 明日香ならではの教育や福祉施策、生活環境を積極的にPRし、定住促進を行います。

## 主な施策

- ①集落環境の向上
- ②地域に応じた生活排水処理施設の整備
- ③公共交通システムの再検討と交通弱者への対応・支援
- ④史跡地及び買上地、公園の適正管理
- ⑤協働のむらづくり推進体制の構築
- ⑥自治活動の促進
- ⑦老朽化した公共施設の更新（耐震化・長寿命化）
- ⑧情報通信網の充実
- ⑨安全な道路環境整備
- ⑩地区計画制度等による土地利用の促進
- ⑪一般廃棄物の減量化とリサイクル促進及びし尿の適正処理
- ⑫住む場所や住みやすさなど定住環境の充実  
（市街化区域の促進と調整区域でのバランスのとれた宅地創出）



清掃活動



いおり野（阪合地区住宅の現状）

## 3-2 災害等に備える危機管理と安全・安心対策の推進 (安全・安心)

### 現状と課題

本村では、地震・風水害などの災害による非常事態に対応するため、備蓄物資のストックや避難訓練を行なうとともに、地域防災計画の策定や、自主防災組織の設立、消防団活動により村民・関係機関との連携を図ってきました。

近年では、東日本大震災や熊本地震、2018年(平成30年)7月西日本豪雨、2019年(令和元年)10月関東東北暴風雨など、従来では想定しえない深刻な被害を及ぼす自然災害が多発し、東南海・南海地震の可能性も指摘をされています。

世帯構成の変化や高齢化が進む中で地域防災の担い手不足、活動の減退が懸念されますが、自助・共助の精神を培い、みんなで大災害等を乗り切れる準備をしていく必要があります。

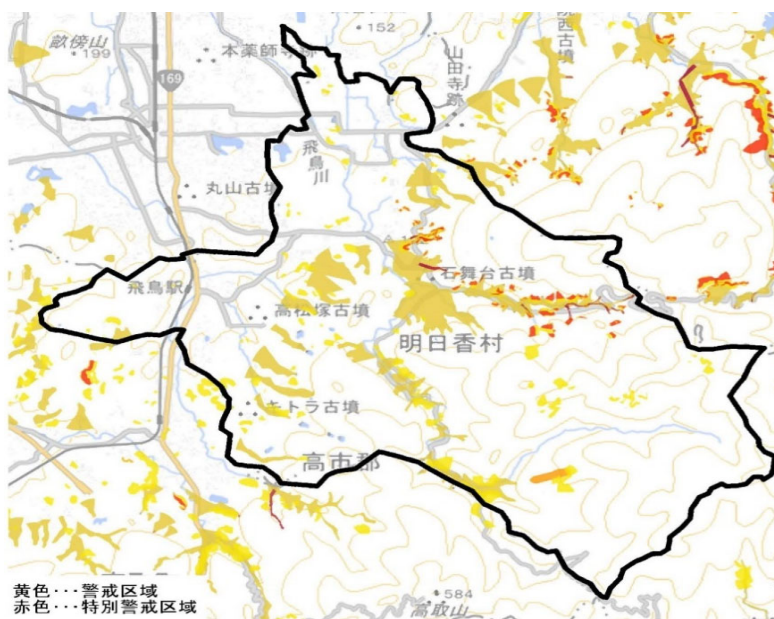
また、本村の役場庁舎は、建築後約50年を経過し、老朽化や耐震性の不足から、大地震等の災害時に、防災拠点としての機能を果たさない状況が見込まれます。

非常時に、村外からの救援も含め、村内での活動の拠点となれる施設や機能の充実を図る必要があります。

一方、防災活動の担い手である消防団員の確保が困難な中、地域防災力の充実が求められています。

防犯・交通安全面では、村民や関係機関との連携により様々な予防対策を進めてきましたが、犯罪が多様化する中で、社会経済状況の変化を踏まえた対策が必要となっています。

明日香村土砂災害ハザードマップ



資料：国土交通省「重ねるハザードマップ」(R1.5 現在)



## 目 標

日頃から災害や犯罪・事故等への備えが整い、安全・安心に暮らせる村を目指します。

## 基本方針

- 大規模災害にも対応できる危機管理体制や消防・救急体制の強化に取り組みます。
- 住民の防災・防犯活動と連携し、安全・安心のための対策や体制構築を進めます。

## 主な施策

- ① 村民・地域・関係機関と連携した危機管理体制の強化
- ② 防災拠点の整備と公共施設の耐震化・長寿命化の推進
- ③ 建築物・工作物の耐震化の促進
- ④ 災害を未然に防ぐ急傾斜対策や河川等の整備
- ⑤ 消防署や消防団との連携による消防体制の充実
- ⑥ 地域防災組織の機能充実による地域防災力の向上
- ⑦ 道路などの交通安全や集落の防犯対策の推進



防災用資機材



明日香村消防団

# 基本政策4 古代史の舞台で「交流を促し元気のある村」(農業・林業・商工・観光・雇用)

～ みんなで進めてもらいたいこと ～

- ① 農林商工業を活性化させる仕組みづくりへの参画
- ② 6次産業化への参画
- ③ 起業及び企業立地の促進

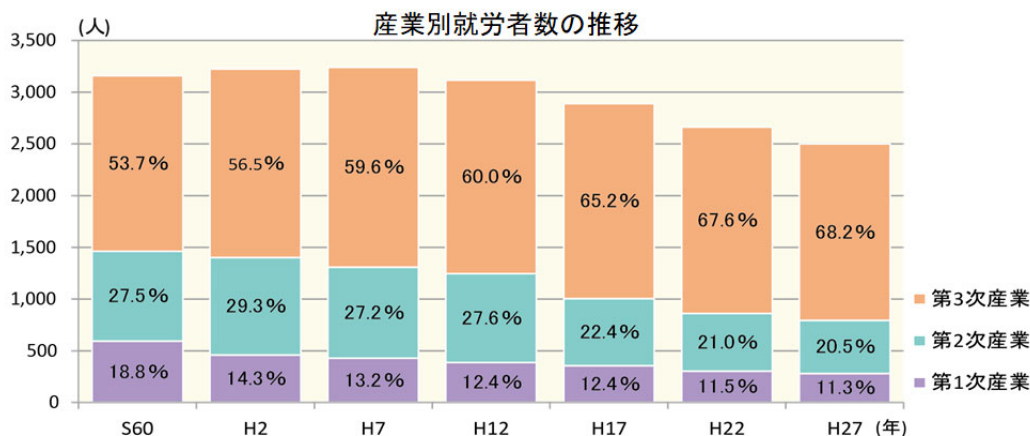
## 4-1 集い働き住みたくなる環境づくり (農・林・商・工)

### 現状と課題

明日香村では人口減少や高齢化とともに就労者数全体が減少しています。産業別では、2015年(平成27年)は第3次産業就労者数が68.2%と最も多く、第2次産業就労者数は20.5%、第1次産業就労者数は11.3%となっており、第1次産業就労者が著しく減少しています。担い手不足の深刻化により、農林業の持続性が危ぶまれ、遊休農地の増加、集落の衰退、森林の荒廃が懸念されます。

明日香を支える農林業が安定して持続的に行われ、農地・林地が適切に維持されるよう、従事者や有識者等との連携により戦略を検討し、6次産業化をはじめとする地域産業として、農林業活性化の取り組みが求められます。歴史的風土の保存や創造的活用の取り組みと連携して、農業・観光の成長産業化・基幹産業化に取り組み、村内の雇用拡大を図るとともに、農林業と民泊の兼業といった多様な働き方を検討していくことも考えられます。

地理的条件では大都市圏域に位置する本村ですが、人口減少と少子高齢化の進行には危機感を持って対策に当たる必要があります。若い世代が住みたくなる、住み続けたくなる生活環境・住環境を整備することが必要です。



1次産業：農業・林業・漁業

2次産業：鉱業・建設業・製造業

3次産業：前記及び「分類不能の産業」以外の産業

6次産業：1次産業としての農林漁業と、2次産業としての製造業と、3次産業としての小売業等の事業との総合的かつ一体的な推進を図り、農山漁村の豊かな地域資源を活用した新たな付加価値を生み出す取り組み。

資料：国勢調査



## 目 標

明日香ならではの資源を活かし、集い働き住みたくなる村づくりを目指します。

## 基本方針

○農地・林地が適切に保全されるよう、従事者や有識者等との連携により戦略を検討し、6次産業をはじめとする地域産業として農林業活性化の取り組みを進めます。

○観光産業のすそ野の広さを活かして農林業と連携した特産品の開発を進めるとともに商品やメニューの販路開拓等による商工業の振興を図ります。

## 主な施策

- ① 農地・林地を保全するための戦略づくり
- ② 農業を支える担い手の確保・支援
- ③ 6次産業化や観光農業による農業経営の基盤強化
- ④ 農地流動化促進による農地の再生・活用
- ⑤ 農地を守るための獣害対策
- ⑥ 山林の機能維持や保全のための山林基盤整備の促進
- ⑦ 商業を活性化させるため村内企業の育成と空き家等を活用した起業の促進
- ⑧ 農道や水路等の整備による営農基盤の改善



チャレンジショップ ASUCOME（あすかむ）



あすか夢販売所

## 4-2 魅力の向上と交流による観光振興を踏まえた活性化の推進(観光・雇用)

### 現状と課題

明日香村への観光客は、年間約 80 万人程度で推移し、宿泊者数も、観光客数に占める割合は少なく、観光による地域振興の基盤が整っているとはいえません。

また、国営公園の整備などにより、古墳などの整備は行われてきましたが、飛鳥時代を象徴する飛鳥宮跡については、整備が充実しているとはいえ、今は「見えない」遺跡であることから宮都の姿は想像に難い状況です。

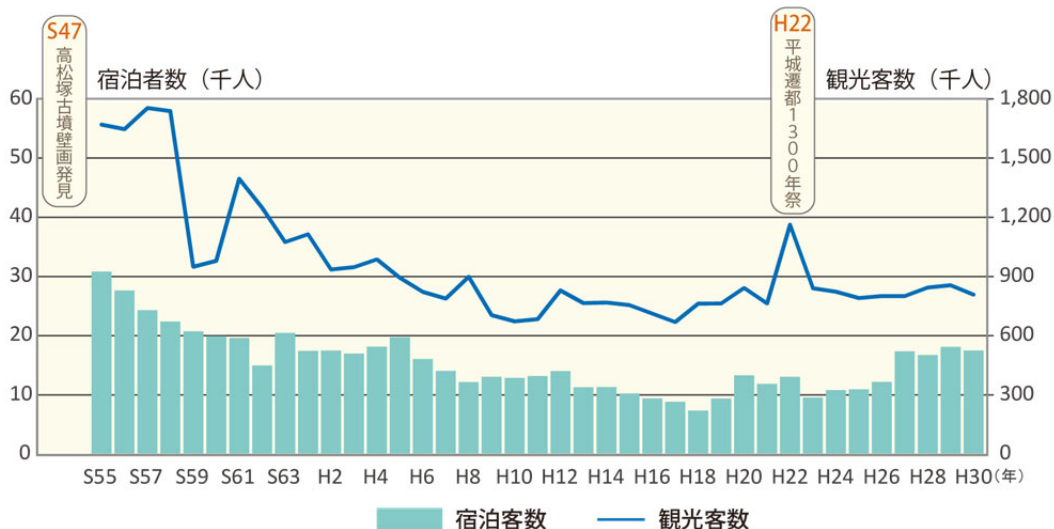
しかし、近年では、訪日外国人の観光者も見かけるようになり、農家民泊等の取り組みにより宿泊数は増加傾向にあります。

今後は、飛鳥宮跡をはじめとする史跡や高松塚古墳壁画をはじめとする国宝など明日香村にある国民的資産を最大限に活用するため、農業や林業、商工業などが連携し、また、明日香村のイメージや情報を明確に打ち出すなどの取り組みや宿泊室数を増やす取り組みと併せ、観光振興によるまちづくりを推し進めていくことが必要です。

さらに、明日香の歴史的風土に相応しい活性化や景観形成に寄与する企業誘致により、地域振興を図ります。

その結果、このような展開により住む人が増え、働く場所のある村を目指します。

明日香村の観光客数と宿泊客数の推移



資料：明日香村



## 目 標

○明日香村の資産を最大限に活かし、観光における戦略を策定し、体験・滞在・交流を通じて、観光振興により明日香村を元気にすることを目指します。

○地域産業の発展と雇用創出を図るため、起業促進や企業誘致に努めます。

## 基本方針

○恵まれた文化財や景観等を活かし、戦略的なイメージづくりにより村の魅力を発信します。

○明日香の魅力を活かし明日香らしさを体感する観光資源の整備・充実を図ります。

○観光産業等の起業や企業誘致促進により、雇用機会の拡充、地域の活性化を目指します。

## 主な施策

- ①宮跡や古墳や壁画など本物を体感できる機会の創出や「見える化」の整備促進
- ②新しい技術を積極的に取り入れた観光力の向上
- ③道の駅「飛鳥」及び周辺機能を高めるとともに、明日香の空間を感じてもらおう滞在型・体験型観光の推進
- ④明日香に興味を持っていただける企業等の積極的な受け入れ
- ⑤地域特産品の創出と流通経路の開発
- ⑥戦略的プロモーションと情報発信の推進
- ⑦インバウンド受け入れを含む観光の基盤づくり
- ⑧周辺自治体との連携による新たな観光ルート（見どころ）の開発など魅力の向上



民家ステイ（入村式）



かんだい明日香まほろば講座

# 基本政策5 世界遺産登録による 「歴史的風土を守り活かし、新たな文化をつくり出す村」 (保存活用・景観・里山・文化・情報発信)

～ みんなで進めてもらいたいこと ～

- ①景観づくり活動
- ②里山・樹種転換活動
- ③芸術・文化・祭礼行事等の活動継承

## 5-1 歴史的文化的資産の保存と活用 (保存活用・景観・里山)

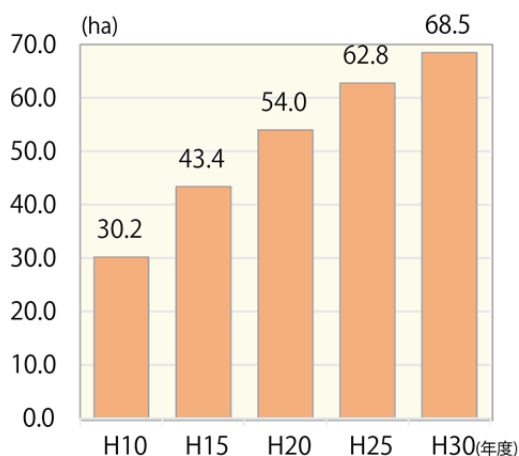
### 現状と課題

明日香村は、我が国の律令国家が形成された時代における政治・文化の中心的な地域であり、宮跡や寺院跡、古墳といった貴重な歴史的文化的遺産が村の全域にわたって数多く存在しています。これらの歴史的文化的遺産と、飛鳥川などかつて万葉集で詠われた風景を偲ばせる自然的環境、棚田や集落等の農村環境、歴史的な街並み、地域で継承されてきた祭礼・行事とが一体となって、特色ある歴史的風土を形成しています。

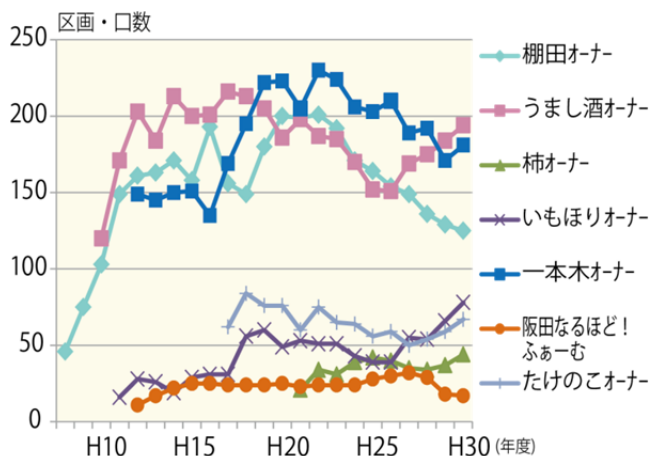
一方で、宮都であった地を想起できる、或いは外交の中心舞台として国際的な交流を繰り広げてきた時代の中心地であったことを体感できる賢明な観光地の魅力の創出が求められています。

明日香法制定後 40 年が経過しようとしている現在、全体としては歴史的風土がおおむね良好に保存され、美しい集落景観が維持されています。また、長い年月を経て継承され、築かれてきた歴史的環境は、郷土に対する愛着や誇りを持つ源となりますが、高齢化の進行などにより後継者不足が顕在化しており、農地や森林を良好に維持することが難しくなっている状況もみられます。

買入地の面積



オーナー制度の推移



資料：明日香村





## 目 標

- 飛鳥の価値を掘り起こすとともに豊かな自然・歴史・文化を基盤に古都として風格ある景観を創出します。
- 世界遺産登録による明日香の価値の再認識と楽しくわかりやすい歴史展示の推進を目指します。

## 基本方針

- 「文化財」と「農・林」と「暮らし」が一体となった「明日香らしい」景観をつくり、それらの資源を活用し、次代の人々に継承します。
- 宮都の姿や往時の国際的なスケール感を体感できる魅力の創出を図ります。
- 国・県・村が責任と役割を果たして歴史的風土や文化的遺産の保存活用を目指します。

## 主な施策

- ①自然環境の保全（生物多様性の保全、農地・里山環境の保全・民間主体との連携促進）
- ②歴史的遺産の適切な保存と有効な活用、歴史的風土を重視した整備
- ③明日香の価値を掘り起こし世界に価値を発信する取り組み（世界遺産登録・日本遺産の活用）
- ④電線の地中化等による集落環境の向上
- ⑤飛鳥宮跡を中心とした彩りある里山整備
- ⑥古都買入れ地の適切な管理と利活用の検討
- ⑦遺跡や歴史的背景の価値を解説し案内できる歴史展示機能の整備
- ⑧大字景観計画づくりと文化的景観への支援
- ⑨オーナー制度による都市交流



うまし酒オーナー



飛鳥宮跡

## 5-2 明日香の価値の継承と創造（文化・情報発信）

### 現状と課題

約 1400 年前に都が置かれ、日本の国や政治・文化がつくりあげられた地です。古代日本歴史の無尽蔵な宝庫であるとともに、万葉集や日本書紀に詠われた景観や地名が今なお村民の生活に深く関わり、おんだ祭りや綱掛神事など自然との関わりを感じられる伝統行事が残っています。

また、飛鳥時代に通じる寺院の年中行事や各集落に伝わる農耕にまつわる祭礼行事、地域に伝わる郷土芸能などが村内に多数存在しますが、少子高齢化に伴い、いずれも担い手が不足しており、継承していく上で課題となっています。

幼小中における郷土学習や明日香の文化を学ぶ機会を取り入れていますが、さらに伝統文化の担い手育成を行うとともに、郷土に誇りを持つ人材の学習機会を拡充する必要があります。

さらに、古代飛鳥の価値や魅力のみならず、姿を変え今もその場所に存在する寺社の信仰行事や歴史的文化的資産について、改めてその価値の評価を行うとともに、記録保存や活動支援等の取り組みが求められています。

今日的には、祭礼行事等の一部をイベント化して観光客にも体験できるようにするなど、「あすか」の新たなイメージや価値観を掘り起こしつつあります。

一方で、本村及び周辺の展示・博物館施設相互の有機的連携が十分ではなく、それぞれの機能を補完できる仕組みが求められています。

これらの明日香ならではの取り組みやイベント等を国内外にも情報発信できる環境づくりが必要です。



明日香村伝承芸能保存会（八雲琴）



祭礼行事



## 目 標

- 明日香らしさを守り育て、明日香の価値を継承し、魅力ある文化を創造します。
- 古代飛鳥のみならず、各地の祭礼行事や新たな文化の創造による価値を国内外に情報発信します。

## 基本方針

- 明日香の価値・魅力をわかりやすく内外に情報発信し、多様な人々との連携を進め、過去から現在、未来につながる明日香の文化の創造を目指します。

## 主な施策

- ①地域祭礼行事や伝承芸能の継承及び民俗文化財の調査・活動支援
- ②芸術・文化活動による明日香の価値の継承と新たな文化の創造
- ③AI等を活用した情報発信基盤の拡充
- ④真実性を重視しつつAR・VR技術による楽しくわかりやすい歴史展示



明日香村文化協会の活動



バーチャル飛鳥京

# 指標（KPI）

基本計画（総合戦略）の各政策の進捗状況を確認する以下の指標を設定し、PDCA サイクルで計画を推進します。

（KPIとは、Key Performance Indicator（重要業績評価指標）の略で、目標の達成度合いを計る定量的な指標のこと。）

基準＝平成30年度

目標＝令和6年度又は令和2年度～令和6年度の総数

## 基本政策1：特色ある歴史的環境で「次代を担う子どもが育つ村」（子育て・教育）

指標	単位	基準	目標	備考
授業がよくわかる（小学生）	%	93	95	
授業がよくわかる（中学生）	%	85	90	
楽スポ会員	人	609	700	
子育て支援ボランティア	人	30	40	

## 基本政策2：万葉の地で「元気にいきいきと暮らせる村」（健康・福祉）

指標	単位	基準	目標	備考
特定健診受診率	%	40.2	45	
高齢者サロン	カ所	17	25	

## 基本政策3：古都にふさわしい「安全・安心で生活しやすい村」（安全・安心・生活環境・定住）

指標	単位	基準	目標	備考
橋梁長寿命化	橋	—	3	平成28年度から実施している点検により要改修が2橋であり、毎年度の点検により要改修になる橋梁も含め、5年間で3橋を改修することを目標とする。
空き家バンク成約数	戸	—	35	空き家バンク制度開始から61件の成約数があり、5年間で35件の成約数を目標とする。
上水道耐震化率	%	32.6	36.2	
新規住宅数	戸	—	50	5年間で50件を目標とする。

## 基本政策4：古代史の舞台で「交流を促し元気のある村」（農業・林業・商工・観光・雇用）

指標	単位	基準	目標	備考
赤かめバス利用数	万人/年	8.7	10	
観光案内所利用者数	万人/年	9	10	
空き家活用事業所	件	—	10	産業活性化バンク制度開始から13件の利用があり、5年間で10件の利用を目標とする。
鳥獣被害面積	a/年	496	100	
民有林整備	ha/年	42	84	
事業所開設	件	—	10	5年間で10件を目標とする。
農業粗生産額	億円/年	7.2	7.5	
うまいもんパソレット掲載商品売上	百万円/年	18	20	

## 基本政策5：世界遺産登録による「歴史的風土を守り活かし新たな文化をつくり出す村」（保存活用・景観・里山・文化・情報発信）

指標	単位	基準	目標	備考
里山整備面積	ha	—	2.5	5年間で2.5haを目標とする。
景観まちづくりボランティア活動団体数	団体数	5	7	



I はじめに  
(序論)

II 基本計画  
(総論)

III 基本計画  
(各論・総合戦略)

IV 人口ビジョン

## IV 人口ビジョン



# 1 明日香村人口ビジョンの位置付けと対象期間

## (1)明日香村人口ビジョンの位置付け

明日香村人口ビジョンは、国の「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」の趣旨を踏まえ、本村における人口の現状分析を行い、人口に関する村民の認識を共有し、今後目指すべき将来の方向と人口の将来展望を示すものです。この人口ビジョン（改訂）は、2015年（平成27年）の国勢調査の結果を踏まえて更新したものです。

併せて策定する「第5次明日香村総合計画基本計画（第2期総合戦略）」において、まち・ひと・しごと創生の実現に向けて効果的な施策を企画立案する上で重要な基礎として位置付けます。

## (2)明日香村人口ビジョンの対象期間

明日香村人口ビジョンの対象期間は、国の長期ビジョンの期間（2060年）を基本としたうえで、さらに将来的な明日香村の地域の維持を図っていくことを念頭に長期的な視野を持たせます。

## (3)国の長期ビジョン(まち・ひと・しごと創生長期ビジョン(令和元年改定版))

国の長期ビジョンの概要を以下に示します。

### 【長期ビジョンの趣旨】

日本の人口の現状と将来の姿を示し、人口減少をめぐる問題に関する国民の認識の共有を目指すとともに、今後、目指すべき将来の方向を提示する。

### 【人口問題をめぐる現状と見通し】

#### 1.人口減少の現状と見通し

①加速する人口減少：2020年代初めは毎年50万人程度の減少であるが、2040年代頃には毎年90万人程度の減少スピードにまで加速すると推計。

②人口減少の地方から都市部への広がり：地方から始まり、既に地方の中核都市にも及んでいる日本の人口減少は、最後は大都市を巻き込んで広がっていくこととなる。

③高齢化の現状と見通し：老年人口は2042年にピークを迎え、その後、総人口の減少とともに老年人口も減少するが、高齢化率は上昇を続け、2060年には38%を超えると推計\*されている。

※資料：社人研「将来推計人口（平成29年推計）」

#### 2.東京圏への一極集中の現状と見通し

○就職時のUターンが減少する一方、地方大学の卒業生が東京圏へ移動する傾向が強まっている状況が指摘されている、近年は東京圏への転入超過数が、男性よりも女性が多い傾向にある。

○東京圏をはじめとした大都市圏においては、高齢化の進行に伴い、医療・介護需要が急速に拡大、高齢者数の増加傾向がこのまま推移するならば、今後、医療・介護需要が高まる。

### 【人口減少問題に取り組む意義】

#### 1.人口減少に対する危機感の高まり

地域差はあるものの、人口減少に対する意識や危機感は、国民の間に徐々に浸透。

#### 2.人口減少が地域経済社会に与える影響

地域社会の担い手減少だけでなく、消費市場が縮小し地方の経済が縮小。この状況が継続すると、人口減少が地域経済の縮小を呼び、更に人口減少を加速させるという負のスパイラルに陥る。

#### 3.人口減少に早急に対応すべき必要性

出生率が早く向上すればするほど将来人口に与える効果は大きい（一定の仮定を置いた試算を行うと、出生率の向上が5年遅れるごとに、将来の定常人口はおおむね300万人ずつ減少する）。



#### 4. 国民の希望とその実現

##### ①結婚・出産・子育てに関する国民の希望

18～34歳の独身者は、男女ともに約9割は「いずれ結婚するつもり」、希望子ども数は男性1.91人、女性2.02人。夫婦の予定子ども数は2.01人<sup>※1</sup>。「国民希望出生率」はおおむね1.8程度となるのに対し、2018年の日本の出生率は1.42。

##### ②地方への移住に関する国民の希望

東京都在住者の約4割が「移住する予定」又は「今後検討したい」<sup>※2</sup>。地方への移住支援を行うNPO法人への2018年の相談件数は、2014年に比べ3倍以上増加<sup>※3</sup>。

※1：資料 社人研「出生動向基本調査」(第15回、平成27年) / ※2：資料 内閣府まち・ひと・しごと創生本部事務局「東京在住者の今後の暮らしに関する意向調査」(平成30年度) / ※3：資料 認定NPO法人ふるさと回帰支援センター「2018 移住希望者の動向プレスリリース」(2019年2月20日)

#### 【長期的な展望 活力ある地域社会の維持のために】

##### (1) 人口の長期的展望

○若い世代の結婚・出産・子育ての希望が実現するならば、我が国の出生率は1.8程度の水準まで向上することが見込まれる。我が国においてまず目指すべきは、特に若い世代の結婚・出産・子育ての希望の実現に取り組み、出生率の向上を図ることである。

##### (2) 地域経済社会の展望

○全国それぞれの地域が、独自性を活かし、その潜在力を引き出すことにより多様な地域社会を創り出していくことが基本となる。自らが、将来の成長・発展の種となるような地域資源を活用し、地域の内にとどまらず、地域の外からも稼ぐ力を高め、地域内経済循環の実現に取り組んでいくことが重要である。

○地域の潜在力を引き出すためには、外部の人材を取り込んでいくことに加え、外に向かって地域を開き、外部の良さを取り込み、外部と積極的につながっていく必要がある。多様な価値観や経験、技術を有する海外からの人材が日本でその能力を一層発揮してもらいやすくすること、さらに、特定の地域に継続的に多様な形で関わる関係人口の創出・拡大に取り組むこともそれぞれ重要である。

○出生率の向上により人口減少を和らげることに限らず、今後の人口減少に適応した地域をつくる必要もある。

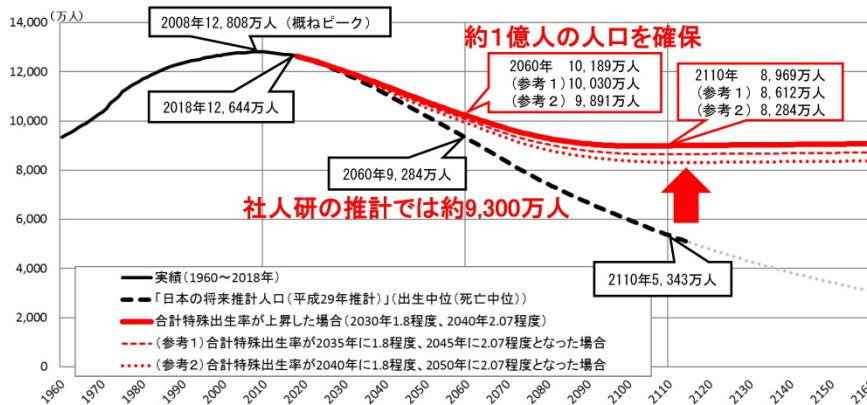
○東京圏は世界をリードする「国際都市」として、ますます発展していくことが強く期待され、将来にわたって「活力ある地域社会」の実現と「東京圏への一極集中」の是正を共に目指す。

○こうした取組を通じて、住民一人一人がそれぞれ暮らす地域において、家族や友人、隣人等との交流の中で、豊かさと生活の充実感を享受できるようにしていくことが重要である。

#### まち・ひと・しごと創生長期ビジョン (令和元年改訂版)

- 社人研の推計(注1)によると、2060年の総人口は約9,300万人まで減少。
- 仮に合計特殊出生率が上昇(注2)すると、2060年は約1億人の人口を確保。  
長期的にも約9,000万人で概ね安定的に推移すると推計。
- 仮に合計特殊出生率の向上が5年遅くなると、将来の定常人口が約300万人少なくなると推計。

#### 我が国の人口の推移と長期的な見通し

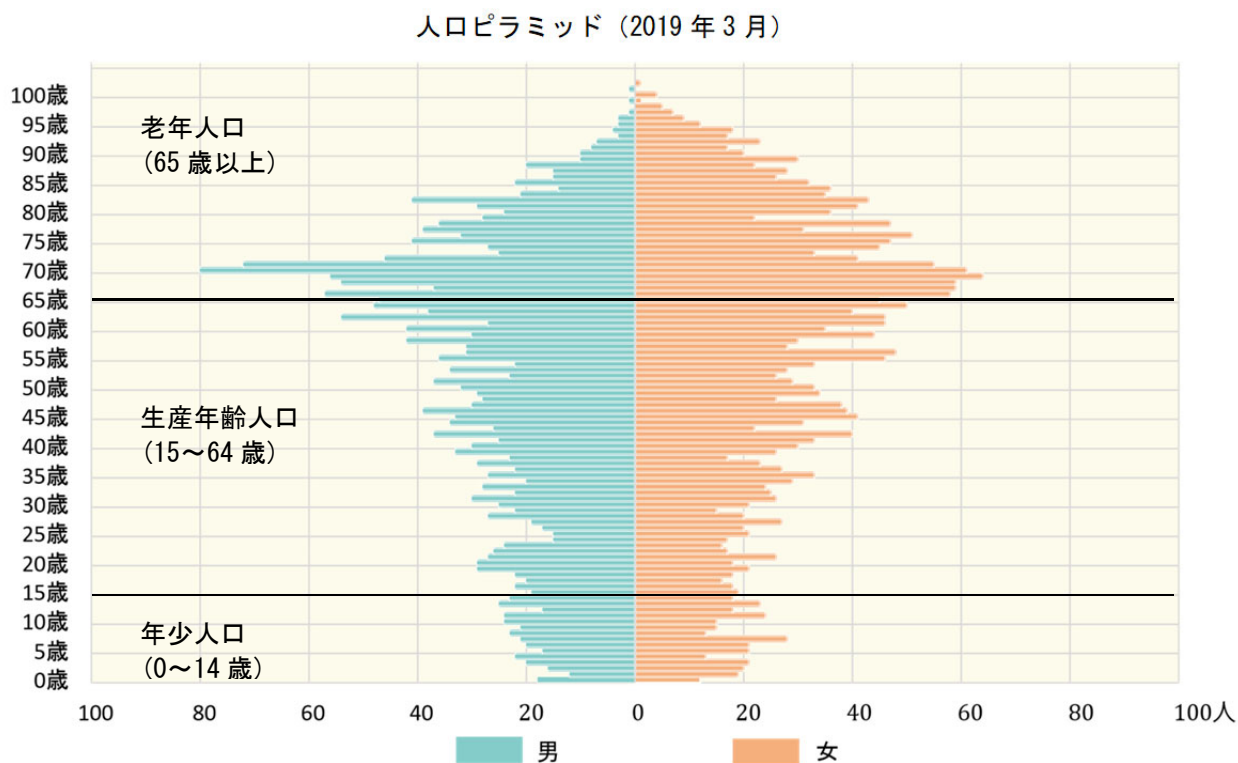


(注1) 社人研「日本の将来推計人口(平成29年推計)」(出生中位(死亡中位))  
(注2) 「合計特殊出生率が上昇した場合」は、2030年に1.8程度、2040年に2.07程度となった場合について、まち・ひと・しごと創生本部事務局において推計を行ったものである。  
(注3) 実績(2018年までの人口)は、総務省「国勢調査」等による(各年10月1日現在の人口)、2115～2160年の点線は社人研の2110年までの推定等をもとに、まち・ひと・しごと創生本部事務局において、機械的に延長したものである。



## 2 人口の現状分析

### (1) 年齢階級別人口



資料：明日香村住民基本台帳(2019年3月31日時点)

□2019年3月末時点の明日香村の人口ピラミッドは、第一次ベビーブーム世代（団塊の世代）の層の厚み大きい形状となっており、人口構成のバランスが悪いことがわかります。

□65歳以上の人口が多く、若者・子ども世代の人口が少ないことから、少子高齢化が進んでいる状況がわかります。なお、高齢化率※は37.9%となっており、奈良県(30.3%)及び全国(27.6%)の数値（住民基本台帳 2019年1月1日時点）より高い値となっています。

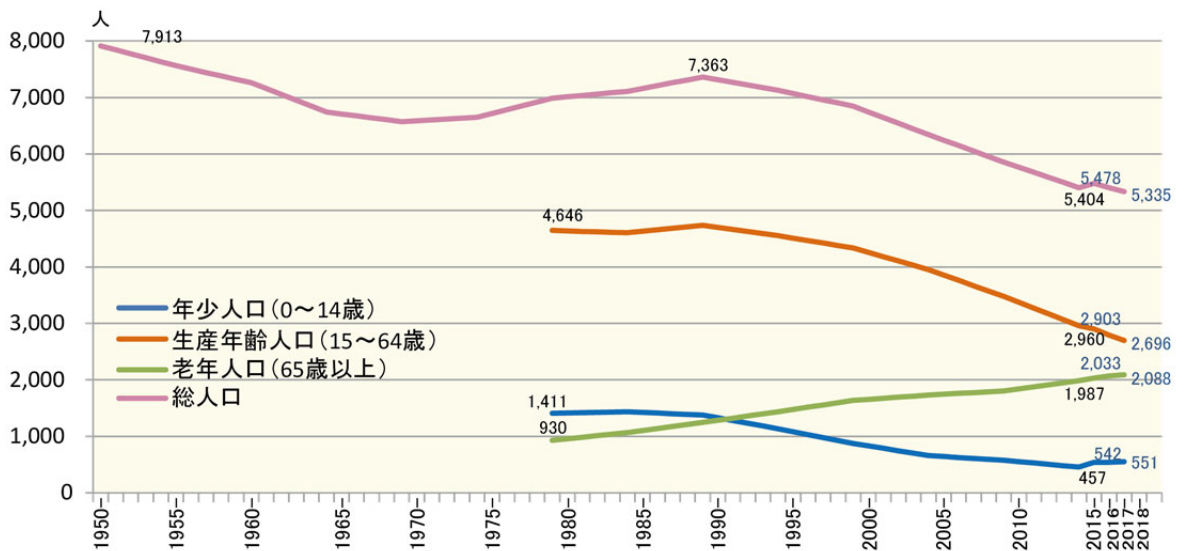
※高齢化率とは、65歳以上の高齢者人口（老年人口）が総人口に占める割合のこと。





## (2)人口の推移

総人口・年齢3区分別人口の推移



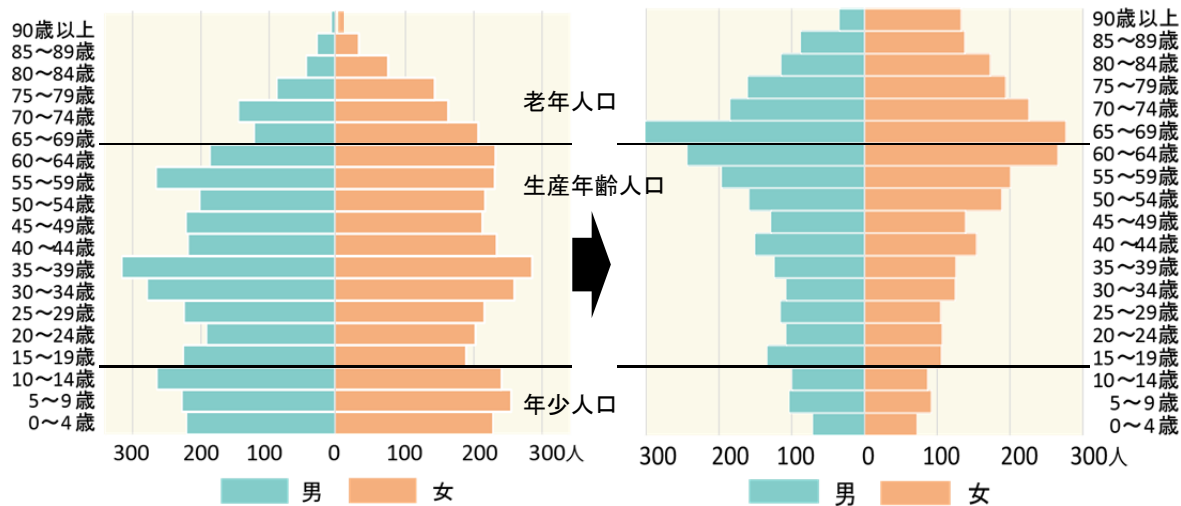
資料：国勢調査(1950年～2015年) 奈良県推計値(2016年～2018年)  
 奈良県推計人口は、直近の国勢調査を基礎として、これに住民基本台帳法に基づき各市町村に届出された出生・死亡・転入・転出の数を加減して推計したもの。グラフ中青字2016年と2018年の推計値。

- 総人口は、1950年から1970年までの高度経済成長期に大きく減少し、一旦は1970年から1990年までの安定成長期・バブル成長期には増加に転じ、そして1990年以降現在までは減少が続いていましたが、2016年は、宅地開発が起こったこともあり、一時増加傾向が見られ、その後は減少傾向が続いています。
- 年少人口は、1985年以降減少傾向が続いていましたが2015年以降微増が見られます。
- 生産年齢人口は、1990年以降減少に転じ、現在まで減少が続いていますが、2016年の減少は若干緩やかになっています。
- 老年人口は平均寿命が延びたこと等により、現在まで増加傾向が続いており、1995年以降には年少人口を上回っています。



### (3)人口構成の変化

人口ピラミッド (左: 1990年、右: 2015年)



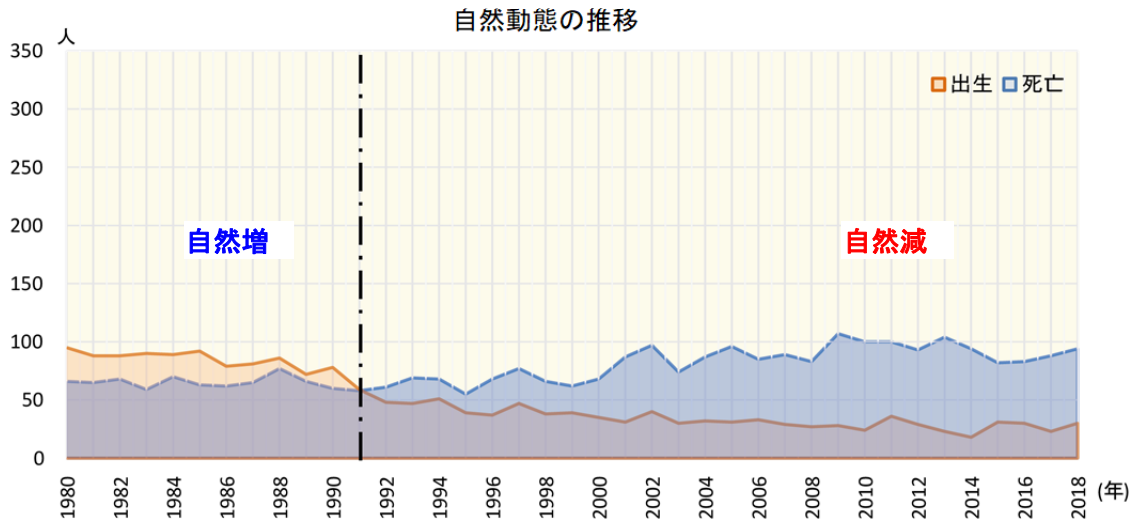
資料: 国勢調査

- 1990年と2015年の人口ピラミッドを比較すると、形状が「釣り鐘形」から変化し、第一次ベビーブーム世代(団塊の世代)の層の厚みが大きい形状となっています。
- 少子高齢化に伴い、老年人口が増加している一方で、年少人口が減少している様子が分かります。
- 高齢者が増えることで、福祉や医療などにかかる費用が増大し、働き手・子育て世代と子どもが減ることで、経済・地域社会の衰退、村の将来の存続が懸念されます。



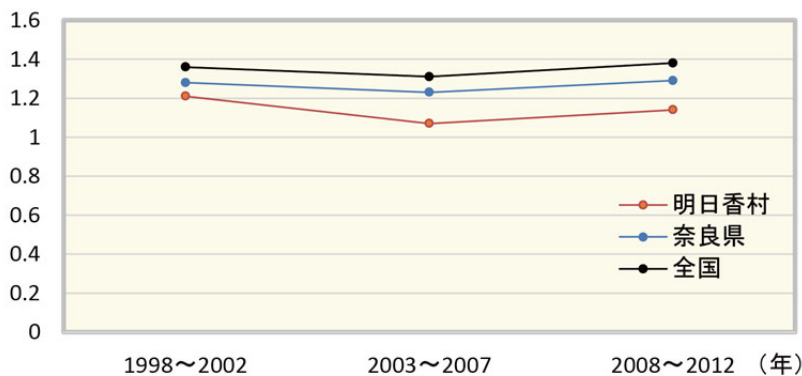
## (4)人口の動態

### 1) 自然動態(出生・死亡に伴う人口の動き)の推移



- 1980年から1991年までは出生数が死亡数を上回っており、自然増の状態となっていました。
- 1992年以降現在まで死亡数が出生数を上回っており、自然減の状態が続いています。
- 今後も自然減の状態が続いていくことが想定されます。

### 合計特殊出生率の推移



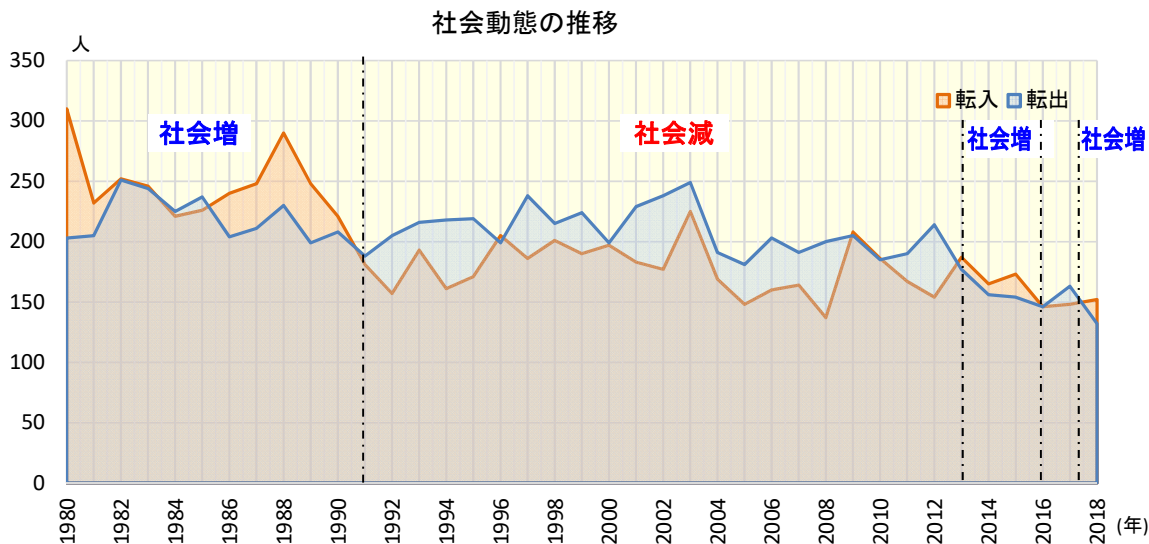
※合計特殊出生率とは、一人の女性が一生の間に生むとしたときの子どもの数(推定)に相当し、15歳から49歳の女性の年齢毎の出生率を合計した数字です。

資料：人口動態保健所・市区町村別統計

- 2008年から2012年の明日香村の合計特殊出生率\*は1.14となっており、奈良県(1.29)及び全国(1.38)の数値より低い値となっています。



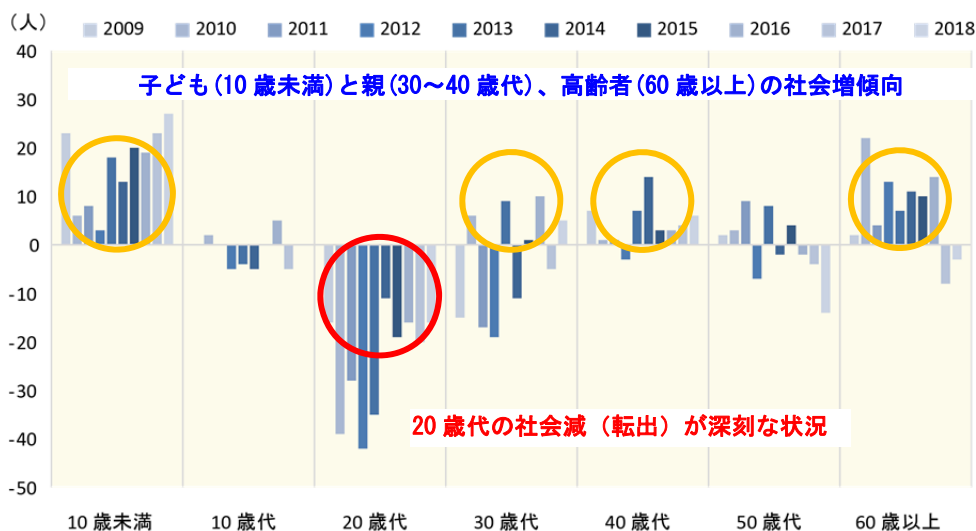
## 2) 社会動態(転入・転出に伴う人口の動き)の推移



資料：明日香村住民基本台帳

- 1980年から1991年までは概ね、転入数が転出数を上回っており、社会増の状態となっていました。
- 1992年から2012年までは概ね、転出数が転入数を上回っており、社会減の状態となっていました。
- 2013年及び2018年は、社会減の年もありますが、再び社会増の状態となっています。

### 年代別社会増減の状況



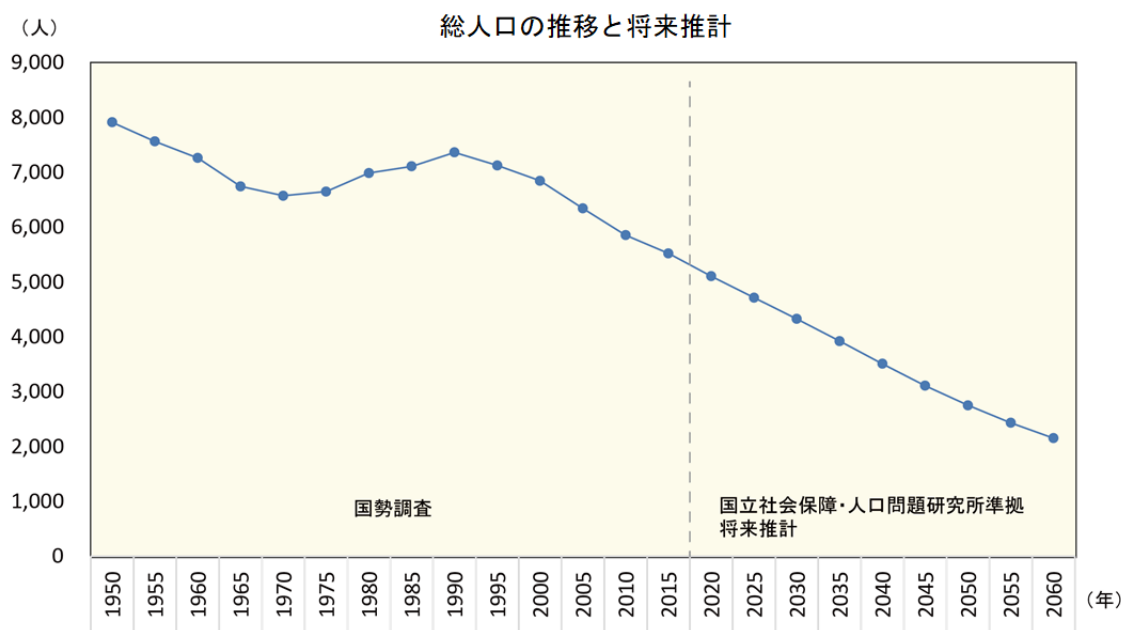
資料：明日香村住民基本台帳

- 年代別社会増減の状況を見ると、20歳代の若者世代の社会減の状態が続いている一方、30~40歳代の親世代と10歳未満の子ども、60歳以上の高齢者は社会増の状態となっている傾向が見られます。



### 3 過去の推移に基づく将来人口の推計と分析

#### (1)過去の推移に基づく将来人口の推計



#### 【将来人口推計の概要（国立社会保障・人口問題研究所準拠）】

- 平成 27(2015)年国勢調査の人口を基準人口とした上で、主に平成 22(2010)年から平成 27(2015)年の人口の動向を勘案し、5 年ごとの将来の人口を推計。
- 5 歳以上の人口推計は、将来の生残率<sup>※1</sup>と将来の純移動率<sup>※2</sup>の仮定値により推計。
- 0~4 歳人口の推計は、生残率と純移動率に加えて、子ども女性比<sup>※3</sup>及び 0~4 歳性比<sup>※4</sup>の仮定値により推計。

※1 生残率とは、年齢 x 歳の人口が、5 年後に x+5 歳になるまで死亡しない確率のこと。

※2 純移動率とは、年齢 x 歳が x+5 歳になる 5 年間の転出入超過数を x 歳の人口で割ったもの。

※3 子ども女性比とは、15~49 歳女性人口に対する 0~4 歳人口の比のこと。

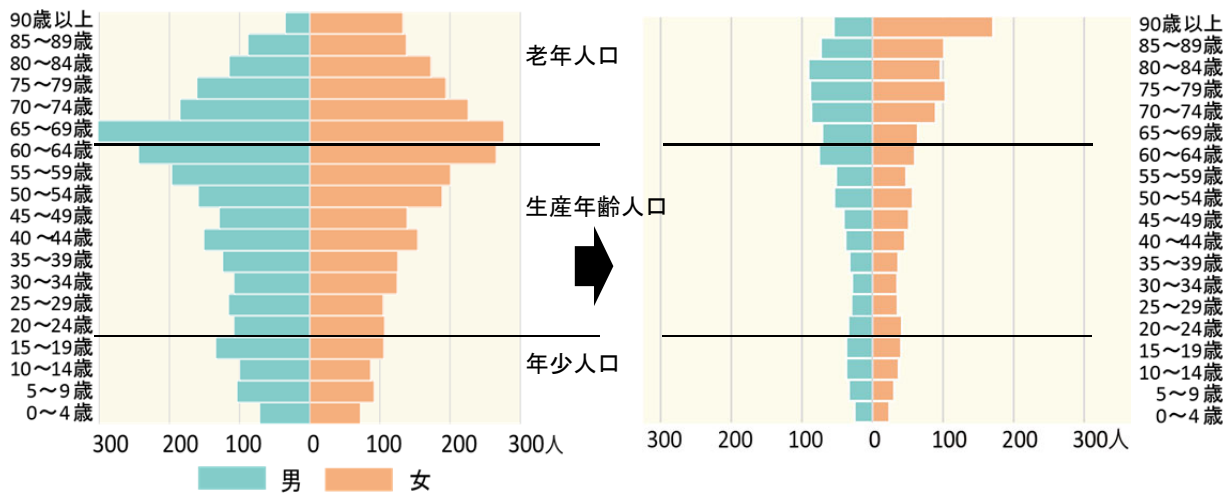
※4 0~4 歳性比とは、0~4 歳の人口について、女性の数を 100 とした場合の男性の数の比を指数で表したものの。

□国立社会保障・人口問題研究所による将来人口推計では、2015 年以降も人口減少が続きますが、4 年前の推計に比べると、総人口は 2040 年には約 3,350 人が 3,510 人、2060 年には約 2,000 人が 2,150 人と、減少の幅が若干減少しています。



## (2)過去の推移に基づく将来人口構成の変化

人口ピラミッド (左 : 2015 年、右 : 2060 年)



資料 : 国勢調査

資料 : 明日香村

□2015年と将来推計となる2060年の人口ピラミッドを比較すると、少子高齢化の状況がさらに進行し、総人口が減少することに加えて、特に働き手・子育て世代と子どもの減少が著しい状況が想定されます。

□現在の状況が進むと、経済・地域社会の衰退、村の将来の存続が懸念されます。



## 4 明日香村の目指すべき人口の将来展望

### (1) 将来展望の考え方

少子高齢化が進み、将来人口が減少していくことが推計結果として示されている中、明日香村の歴史的景観を守り、地域社会を維持していくために、まず空き家の活用や新住宅地の整備による人口増加の受け皿を確保していく必要があります。同時に、若者や親子連れ層をターゲットとして、村外からの転入を促し、転出を抑制する施策を戦略的に講じることが必要です。このように、ハード・ソフトの一体的な対策により、高齢者から若者世代・子どもまでバランスのとれた人口構成を保つことで、将来にわたって一定人口を維持していく必要があると考えています。

そのために、現状の「転入・転出の状況を改善（社会増をふやす）」することを目標とし、

特に、◆「30歳代+子ども」の定着・受入を積極的に進める

◆30歳代の予備軍である「20歳代」の定着・受入を進める

ことにより、将来的に3,200~4,000人程度の人口を目指します。

※20~30歳代の人口が増加していくことで、合計特殊出生率は、自ずと現況より改善されるものと想定します。

### (2) 具体的な目標設定

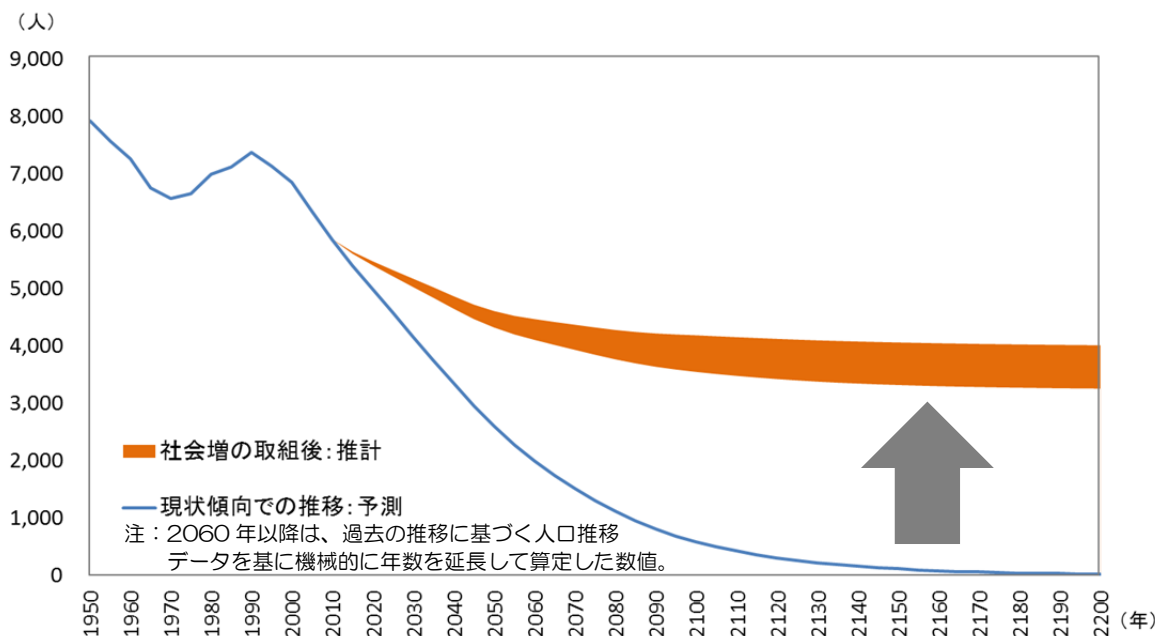
具体的な目標値として、下記のとおり設定します。

『現状の転入・転出の状況にプラスして、転入増もしくは転出減となるよう  
毎年30~40人上乗せする』



### (3) 明日香村の目指す人口の将来展望

人口の将来展望



資料：明日香村

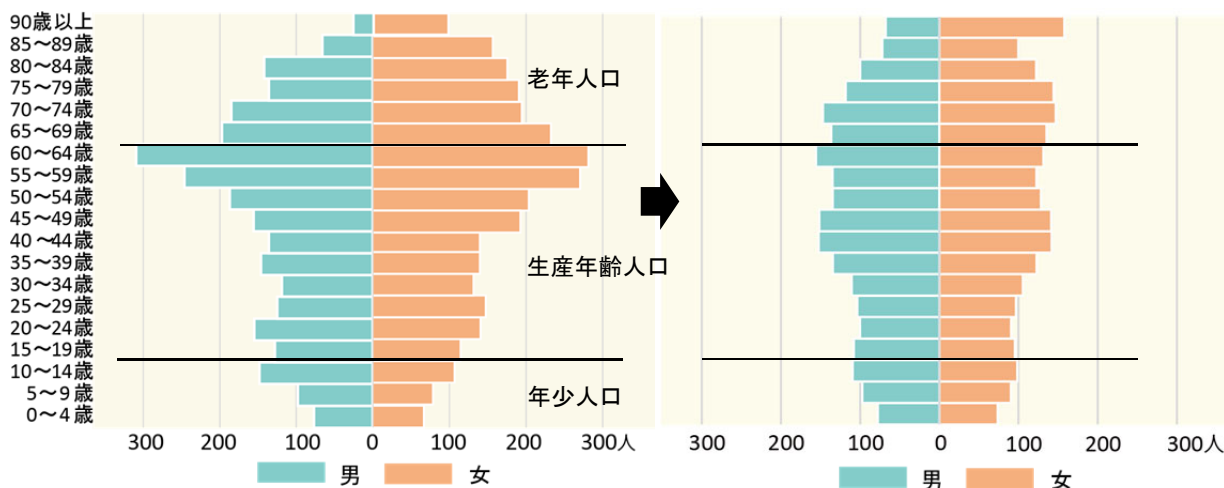
転入減・転入増の状況を改善する村の施策を推進して上記の目標値を達成することで、『将来的に、3,200~4,000人程度の人口で安定すること』を目指します。

なお、本ビジョンの対象期間としている2060年には、「4,100~4,500人程度の人口を確保」することを目指します。





人口ピラミッド（左：2010年、右：2060年）



□2010年と将来推計となる2060年の人口ピラミッドを比較すると、総人口は減少するものの、働き手・子育て世代と子どもの人数は一定数確保され、バランスのとれた人口構成になるものと想定されます。

【備考】人口の将来展望のグラフと2060年の人口ピラミッドの作成には、下記条件①かつ②を用いた。

※出生率は、1.14（2008～2012年の平均値：明日香村）から1.42（2014年の全国平均値）までの幅を持って推移していくと想定し、将来人口についてもオレンジ色の幅（人口の将来展望グラフ参照）を持った将来人口として推計を行っている。

条件① 「30歳代の親子連れ」の転入増(+)及び転出減(-)の合計人数を+21人とする。

〔+21人の内訳〕  
毎年、35～39歳男女：6人+5～9歳男女：3人  
毎年、30～34歳男女：8人+0～4歳男女：4人

条件② 「20歳代の若者」の転入増(+)及び転出減(-)の合計人数を+14人とする。

〔+14人の内訳〕  
毎年、20～24歳男女：6人+25～29歳男女：8人

第5次明日香村総合計画基本計画（総合戦略）

—明日香村読本 別冊—

令和2年3月

発行・編集：明日香村

〒634-0111 奈良県高市郡明日香村大字岡55番地

TEL：0744-54-2001 FAX：0744-54-2440



